

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2020年5月29日

【事業年度】 第48期(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

【会社名】 株式会社パルグループホールディングス

【英訳名】 PAL GROUP Holdings CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 井上 隆太

【本店の所在の場所】 大阪府中央区道修町三丁目6番1号

【電話番号】 06 6227 0308

【事務連絡者氏名】 執行役員財務経理部長 藤井 利雄

【最寄りの連絡場所】 大阪府中央区道修町三丁目6番1号

【電話番号】 06 6227 0308

【事務連絡者氏名】 執行役員財務経理部長 藤井 利雄

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月		2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月	2020年2月
売上高	(百万円)	114,410	116,457	123,241	130,474	132,163
経常利益	(百万円)	5,741	6,044	6,967	7,832	9,168
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	3,288	3,071	2,489	4,760	7,028
包括利益	(百万円)	3,057	3,077	2,602	4,814	6,858
純資産額	(百万円)	36,053	37,590	38,475	41,639	46,627
総資産額	(百万円)	76,918	77,083	82,890	87,726	94,954
1株当たり純資産額	(円)	1,638.84	1,708.72	1,748.96	946.40	1,059.78
1株当たり当期純利益	(円)	149.16	139.60	113.16	108.20	159.74
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	46.9	48.8	46.4	47.5	49.1
自己資本利益率	(%)	9.3	8.3	6.5	11.9	15.9
株価収益率	(倍)	17.1	19.6	26.7	14.6	9.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,308	5,160	5,236	10,378	14,705
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,171	1,531	1,717	1,182	3,543
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,849	2,844	1,322	4,291	4,068
現金及び現金同等物の 期末残高	(百万円)	35,174	35,959	40,728	45,633	52,727
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数)	(名)	2,842 (2,634)	3,134 (2,609)	3,345 (2,714)	3,349 (2,439)	3,418 (2,291)

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 当社は2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益」は第47期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第48期の期首から適用しており、第47期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第44期	第45期	第46期	第47期	第48期
決算年月		2016年 2 月	2017年 2 月	2018年 2 月	2019年 2 月	2020年 2 月
売上高又は営業収益	(百万円)	95,315	49,992	4,528	6,387	8,155
経常利益	(百万円)	6,077	3,954	3,085	4,282	6,157
当期純利益又は 当期純損失()	(百万円)	3,342	2,300	867	2,980	8,383
資本金	(百万円)	3,181	3,181	3,181	3,181	3,181
発行済株式総数	(株)	23,136,000	23,136,000	23,136,000	23,136,000	23,136,000
純資産額	(百万円)	34,646	35,410	33,127	34,497	40,886
総資産額	(百万円)	67,647	46,657	50,729	51,265	57,226
1株当たり純資産額	(円)	1,574.89	1,609.64	1,505.86	784.07	929.30
1株当たり配当額 (内 1株当たり中間配当額)	(円)	70.00 (-)	70.00 (-)	75.00 (-)	85.00 (-)	100.00 (-)
1株当たり当期純利益又は 当期純損失()	(円)	151.58	104.57	39.45	67.73	190.55
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	51.2	75.9	65.3	67.3	71.4
自己資本利益率	(%)	9.9	6.6	2.5	8.8	22.2
株価収益率	(倍)	16.8	26.2	-	23.3	7.6
配当性向	(%)	46.2	66.9	-	62.7	26.2
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数)	(名)	2,222 (2,321)	53 (7)	66 (5)	62 (4)	41 (3)
株主総利回り (比較指標：配当込みTOPIX)	(%) (%)	80.7 (86.8)	88.5 (105.0)	99.5 (123.5)	106.3 (114.8)	101.5 (110.6)
最高株価	(円)	4,445	3,110	3,760	3,400	3,855 1,592
最低株価	(円)	2,175	2,057	2,411	2,353	2,973 1,418

- (注) 1 売上高又は営業収益には消費税等は含まれておりません。
- 2 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 3 当社は、2016年 9月 1日付で会社分割を行い、衣料、雑貨事業を新しく設立した株式会社パルに承継しました。このため、第45期以降の経営指標等は第44期以前と比較して大きく変動しております。なお、従来は売上高として表示しておりましたが、第48期より営業収益として表示しております。
- 4 第46期の株価収益率及び配当性向は 1株当たり当期純損失のため記載していません。
- 5 第46期の当期純損失の計上は、子会社に対する多額の債務保証損失引当金繰入額の計上等によるものであります。
- 6 当社は、2020年 3月 1日付けで普通株式 1株につき 2株の割合で株式分割を行っております。そのため、「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益」は、第47期の期首に株式分割が行われたと仮定して算定しております。なお、1株当たり配当額については、株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。
- 7 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年 2月16日)等を第48期の期首から適用しており、第47期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準を遡って適用した後の指標等となっております。
- 8 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。印は株式分割による権利落後の最高・最低株価を示しております。

2 【沿革】

1973年10月	株式会社スコッチ洋服店のカジュアル部門を分離し、株式会社パルを設立。大阪市中央区に本社を設置。大阪府堺市のダイエー中百舌鳥店にてジーンズショップ「パル青山」の営業を開始。
1975年4月	ジーンズショップ2号店「パル茨木店」を大阪府茨木市に出店。
1980年3月	ジーンズショップ「パル青山須磨店」(神戸市須磨区)・「パル高槻店」(大阪府高槻市)・「パル堺東店」(大阪府堺市)等の出店により郊外型店舗の基盤確立。
1981年5月	イタリア系インポートショップの店舗展開を事業目的に英・インターナショナル株式会社(連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。(1999年1月に3店舗の営業を当社へ移管し休眠)
1981年11月	トレンドショップ「フレーザー」を大阪市北区の梅田エスト1番館に出店。都心型店舗の出店開始。
1982年3月	衣料品小売の一部門として株式会社アンジェ(ジェネラル株式会社、連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。(1989年2月に9店舗の営業を当社へ移管し休眠)
1984年11月	衣料品小売の一部門として株式会社ピー・エム・ピー(1998年8月に㈱クリップに商号変更、現株式会社P.M.フロンティア 現・連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。
1985年9月	アクセサリショップ「パルコレクション」を大阪市北区の阪急梅田三番街に出店。
1988年6月	トレンドショップ「アレグロビバーチェ」を東京都渋谷区の渋谷パルコに出店。東京進出開始。
1988年6月	ユニセックス業態のカジュアルセレクトショップ「CIAOPANIC」を大阪市中央区のなんばCITY南館に出店。
1991年4月	フレンチカジュアル業態のタウン系カジュアルショップ「DOUDOU」を大阪市北区のGARE大阪に出店。
1993年8月	ユニセックス業態のトレンド系セレクトショップ「MYSTIC」を大阪市北区のGARE大阪に出店。
1994年4月	300円ショップ「3 COINS」を大阪市北区茶屋町に出店。雑貨事業の出店開始。
1995年3月	タウンカジュアル業態のモード系インポートセレクトショップ「LUIS」を大阪市北区のGARE大阪に出店。
1996年4月	株式会社アンジェを株式会社アッカ(ジェネラル株式会社、連結子会社)に商号変更し、衣料品の企画製造卸事業を開始。
1997年2月	ユーズド業態「CIAOPANICUSED」を大阪市天王寺区の天王寺M10に出店。
1999年3月	アウトレット業態「パルオールスターズ」を大阪市住之江区のATCマーレに出店。
1999年6月	ユーズド商品供給を目的として、オレゴン州ポートランドにUSA事務所を設立。
2000年2月	インターネットによる衣料及び雑貨の通信販売業として、株式会社インヴォークモード(現・連結子会社)を設立。大阪市中央区に本社を設置。
2002年6月	株式会社ナイスクラブに資本参加(現・連結子会社)。
2002年11月	株式会社パル・リテイルシステムズ・サービス(連結子会社)を設立。
2003年4月	英・インターナショナル株式会社(連結子会社)が事業を再開。
2004年2月	株式会社シエトワ(連結子会社)の株式を100%取得。
2004年4月	株式会社マグスタイル(現・連結子会社)を設立。
2005年9月	株式会社ナイスクラブ(現・連結子会社)の株式を追加取得。
2006年3月	株式会社東洋産業商会(連結子会社)の株式を100%取得。
2006年3月	株式会社シエトワ(連結子会社)を吸収合併。
2007年1月	株式会社クレセントスタッフ(現・連結子会社)の株式を100%取得。
2007年3月	株式会社T H R E A Dに資本参加(連結子会社)。
2007年5月	株式会社クリップを株式会社P.M.フロンティア(現・連結子会社)に商号変更し、店舗開発事業を開始。
2007年9月	株式会社パル・リテイルシステムズ・サービスを吸収合併。
2009年7月	株式会社バレリー(現・連結子会社)を設立。
2011年3月	株式会社フリーゲート白浜を設立。
2011年5月	株式会社ブランミューデイズ(連結子会社)の株式を100%取得。
2012年9月	株式会社東洋産業商会(連結子会社)を吸収合併。
2013年3月	株式会社T H R E A D(連結子会社)を吸収合併。
2013年10月	株式会社アッカをジェネラル株式会社(連結子会社)に商号変更し、事業を再開。
2015年1月	PAL HOLDINGS(SINGAPORE)PTE.LTD.(現・連結子会社)を設立。

- 2016年 9月 会社分割を行い、商号を株式会社パルグループホールディングスに変更するとともに、衣料、
雑貨事業を新たに設立した株式会社パル(現・連結子会社)に承継。
- 2017年12月 株式会社オリーブ・デ・オリーブ(連結子会社)の株式を100%取得。
- 2019年 3月 株式会社ナイスクラブ(現・連結子会社)が株式会社オリーブ・デ・オリーブ(連結子会社)を
吸収合併。
- 2019年 8月 株式会社ノーリーズと資本提携。
- 2019年 9月 株式会社パル(現・連結子会社)が英・インターナショナル株式会社(連結子会社)を吸収合併。
- 2019年 9月 株式会社パル(現・連結子会社)がジェネラル株式会社(連結子会社)を吸収合併。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社を持株会社として、子会社11社及び関連会社5社にて構成されており、一般消費者を対象とした店頭での衣料の販売を主な事業の内容とし、更に雑貨の販売及びその他の事業を展開しております。

当社グループの事業内容及び主なグループ各社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

なお、当該区分は「第5 経理の状況(セグメント情報等)」に掲げるセグメント情報の区分と同一であります。

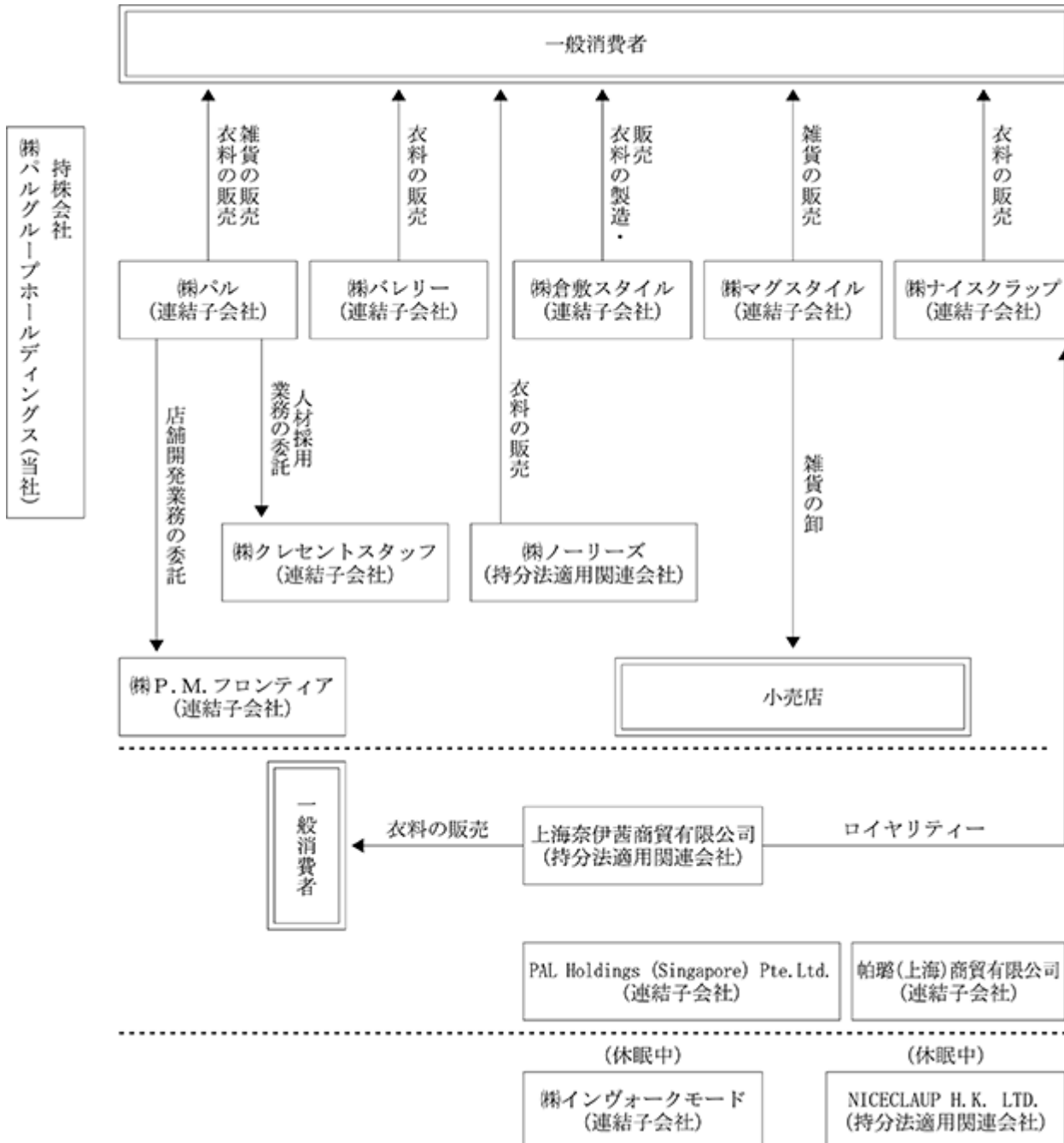
(衣料事業)

衣料事業は、「常に新しいファッションライフの提案を通じて社会に貢献する」の社是のもと、移り変わるファッションのトレンドを的確に捉え、多様なコンセプトの業態を開発しています。

(雑貨事業)

雑貨事業は、100円ショップ等の均一価格ショップが広がりを見せる中、価格帯を300円および1,000円に設定して、それらとの差別化を図り、よりファッション性を高めた雑貨を販売する「3 COINS」、「サリュ」を展開しています。

連結子会社(株)マグスタイルにより、生活関連雑貨の卸売、小売を行っております。



(注) 1 持分法適用関連会社NICECLAUP H. K. LTD.は、2008年9月より営業を休止しています。

2 連結子会社(株)インヴォークモードは、2011年1月より営業を休止しています。

3 連結子会社(株)バレリーは、2020年3月1日に(株)パルが吸収合併いたしました。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社)						
(株)パル (注)2、3	大阪市中央区	100	衣 料	100.0	-	役員の兼任...有
(株)P.M.フロンティア	大阪市中央区	20	その他	100.0	-	役員の兼任...有
(株)インヴォークモード	大阪市中央区	30	その他	100.0	-	役員の兼任...有
(株)マグスタイル	東京都渋谷区	50	雑 貨	100.0 (40.0)	-	役員の兼任...有
(株)ナイスクラップ(注)2、4	東京都渋谷区	50	衣 料	100.0	-	役員の兼任...有
(株)クレセントスタッフ	東京都港区	96	その他	100.0	-	役員の兼任...有
(株)バレリー(注)5	大阪市中央区	50	衣 料	100.0	-	役員の兼任...有
(株)倉敷スタイル	岡山県倉敷市	9	衣 料	80.0	-	役員の兼任...有
PAL HOLDINGS (SINGAPORE) PTE.LTD.	シンガポール	3,933千 シンガポ ールドル	海外投資	100.0	-	役員の兼任...有
帕璐(上海)商貿有限公司	中国 上海市	11,180千 人民元	雑 貨	100.0 (100.0)	-	役員の兼任...有
(持分法適用関連会社)						
(株)ノーリーズ	東京都中央区	27	衣 料	39.0	-	役員の兼任...有
NICECLAUP H.K. LTD.	HONG KONG	78千 香港ドル	衣 料	30.0 (30.0)	-	役員の兼任...有
上海奈伊茜商貿有限公司	中国 上海市	2,900千 人民元	衣 料	37.9 (37.9)	-	役員の兼任...有

(注) 1. 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。

2. 特定子会社であります。

3. (株)パルについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	108,778百万円
	経常利益	6,339百万円
	当期純利益	5,317百万円
	純資産額	3,741百万円
	総資産額	45,694百万円

4. (株)ナイスクラップについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	売上高	15,862百万円
	経常利益	835百万円
	当期純利益	653百万円
	純資産額	5,152百万円
	総資産額	8,733百万円

5. (株)バレリーは、2020年3月1日に(株)パルが吸収合併しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年2月29日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
衣料事業	2,553(955)
雑貨事業	729(1,330)
その他	15(-)
事務管理	121(6)
合計	3,418(2,291)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

2020年2月29日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
41	46.3	8.6	4,838

セグメントの名称	従業員数(名)
事務管理	41(3)
合計	41(3)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社経営の基本方針

当社は「常に新しいファッションライフの提案を通じて社会に貢献する」ことを社是としております。そしてその実現に向け、商品、サービス、販売技術、財務体質や社員の質などすべてにおいて、お客様はもとより、株主の皆様、お得意先様、また、社会から認められる企業として成長し、信頼を確立することを基本方針としております。

(2) 目標とする経営指標

当企業集団は、企業基盤を強化し、高収益体質の構築を目指しております。その結果として、ROE(自己資本利益率)12%を安定的に達成することを目標として企業経営に取り組んでおります。

(3) 経営環境及び対処すべき課題

2019年度におけるわが国の経済環境は、企業収益の改善や雇用環境の改善などを背景に緩やかながら回復をみせており、また、個人消費につきましても改善しつつありましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、先行きは極めて不透明な状況になってきております。

アパレル小売業界におきましては、低価格商品への訴求がまだまだ強い中、コーディネート商品の買い直し等も起こってきております。また、店舗での購入からECでの購入への販路の変化は従来以上に進んできております。

このような状況のもと、当社企業集団では、『価格戦略商品の投入』による客数の増加に注力してまいりました。また、EC売上につきましても、従業員の教育を徹底し、社内インフルエンサー制度の強化など、全社での取り組みを推進することで、大きく伸ばすことができました。

これらの施策により、当年度においては、売上高、経常利益ともに前年比増加いたしました。新型コロナウイルス感染症による来年度収益への影響は極めて大きくなるのが確実になってきております。

2020年4月には緊急事態宣言が発令され、外出自粛要請が強化されるとともに、全国に展開しております当社のほとんどの店舗が臨時休業を余儀なくされました。5月4日には同宣言が延長されたことから、大都市圏においては臨時休業の長期化が予想され、ゴールデンウィーク明けには大都市圏以外において一部の店舗が開店したものの、時間短縮の営業となっております。このため、当社の2020年4月度及び5月度の売上高が前年比大幅減少となることは確実となっております。

こうした状況から、当社ではインスタライブをはじめ、様々なITによる当社商品の紹介に注力するとともに、ポイント付与拡大、期間限定セール等の様々な施策を打つことによりEC売上拡大に努めております。さらに従来より実施している在庫管理の徹底やさまざまなコストの削減といった施策についても原点に戻って引き続き推進しております。

持株会社体制に移行いたしました目的である、スピード感のある経営がまさに求められる環境の中、積極的にグループ運営を展開し、一層の効率性の向上に向けた対応を実施していくことで、今後も安定的な成長を目指していく所存です。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

(1) ファッション動向の変化について

一般に、ファッション動向は常に変化する流行に左右されることから、当社グループが属するファッション衣料業界におきましては、業績に対する流行の影響を排除することは困難であります。また、主要顧客である若年層向のマーケットにおける同業他社との競争は熾烈であります。

当社グループでは、複数のブランドを持つことにより広範囲のファッションをカバーし、また、一週間単位で事業部毎に各店責任者が集まり、販売動向、在庫動向等の検証を行う等、流行に即した商品企画および仕入に努めております。

(2) 出店政策について

テナント出店について

当社グループは、主として駅ビルや商業施設等にテナントとして出店しております。これは集客力を有する駅ビル等に店舗することで販売力を確保すること、周辺環境や人の流れの変化に迅速に対応し出退店によるスクラップアンドビルドを行う際に過剰な固定資産や設備の保有を極力避けることを目的とするものであります。

当社グループは、今後もストアブランドを保ちながら、駅ビルや商業施設等へのテナント店舗を中心に積極的な出店を進めていく方針であります。

また、出店先の選定にあたり、賃借料、商圈人口、特に衣料品に関しては主要顧客である若者に魅力ある出店先であるかどうか等を総合的に勘案することで、効率的な店舗展開を図っております。当社グループにとって魅力的な出店先が十分に確保できない場合には出店数を縮小する可能性があるほか、店舗の出店数、出店場所、出店時期等により、当社グループの業績は影響を受ける可能性があります。

さらに、テナント店舗の出店にあたり店舗賃借のための保証金の差し入れを行っているため、2020年2月末時点において保証金が総資産の13.7%を占めております。当社グループは大手デベロッパーへの出店がほとんどであります。倒産その他賃貸人の事由により保証金の全部または一部が回収できない可能性があります。

スクラップアンドビルドに伴う費用について

当社グループは、ファッショントレンドの変化を迅速かつ正確に読み取り新しい業態を開発する一方、時流に合わなくなった古い業態は積極的に見直しております。一般に小売業界におきましては開店後の経過等により既存店舗の売上は減少する傾向にあることから、当社グループでは新規出店に加えて、既存店舗におきましても商品構成の見直し、業態変更、必要な場合は退店を行う等、スクラップアンドビルドを積極的に行うことで店舗全体の活性化を図っております。当社グループでは、このような事業再構築のための費用が、いわば必要経費的に発生するものと認識しております。

(3) 顧客情報の管理について

当社グループでは、顧客情報の管理には細心の注意を払っておりますが、顧客情報の外部漏洩事件が発生した場合には、当社グループの信用力が低下する等により、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー(以下「経営成績等」という。)の状況の概要は以下のとおりであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

経営成績の状況

当連結会計年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に緩やかな回復基調で推移しましたが、米中貿易摩擦の激化や中国経済の減速に加え、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により先行きは極めて不透明な状況にあります。このような事業環境のもと、当企業集団は業態の確立と出店の促進とを積極的に行うとともに、業態変更による既存店の活性化と不採算店舗の撤退とを推し進め、業容の拡大と経営効率の改善に努めてまいりました。

衣料事業におきましては、積極的なブランドプロモーションを展開するとともに、MDの改革を推進し、機動的な商品投入によって店頭商品の鮮度を向上させるなどした結果、売上高は前年比1.0%増加の97,102百万円となりました。また、雑貨事業につきましては、売上高は前年比2.2%増加の34,968百万円となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年比1.3%増加の132,163百万円となりました。利益面につきましては、売上総利益率は前年比0.6ポイント増加の56.3%となりました。営業利益は前年比1,133百万円増加の9,067百万円となり、経常利益は前年比1,336百万円増加の9,168百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前年比2,267百万円増加の7,028百万円となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

(衣料事業)

売上高は前年比1.0%増加の97,102百万円となり、セグメント利益(営業利益)は6.2%増加の6,701百万円となりました。

(雑貨事業)

売上高は前年比2.2%増加の34,968百万円となり、セグメント利益(営業利益)は48.8%増加の2,329百万円となりました。

財政状態の状況

(資産)

流動資産は、商品及び製品が2,582百万円減少しましたが、現金及び預金が7,094百万円、受取手形及び売掛金が812百万円それぞれ増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて5,275百万円増加しました。固定資産は、建物及び構築物が211百万円減少しましたが、投資有価証券が1,806百万円、繰延税金資産が613百万円それぞれ増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて1,952百万円増加しました。

(負債)

流動負債は、短期借入金が1,856百万円、未払法人税等が1,315百万円それぞれ減少しましたが、支払手形及び買掛金が3,947百万円、1年内返済予定の長期借入金が753百万円、未払消費税等が848百万円それぞれ増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて2,645百万円増加しました。固定負債は、退職給付に係る負債が145百万円増加しましたが、長期借入金が170百万円、債務保証損失引当金が174百万円、リース債務が198百万円それぞれ減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて405百万円減少しました。

(純資産)

純資産は利益剰余金が5,158百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末と比べて4,988百万円増加しました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動により取得した資金が14,705百万円となったことなどにより、前連結会計年度末に比べ7,094百万円増加し、52,727百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

前連結会計年度におきましては、営業活動の結果取得した資金は10,378百万円でありましたが、当連結会計年度は、たな卸資産が2,590百万円減少したこと、仕入債務が3,859百万円増加したこと、税金等調整前当期純利益が8,604百万円となったことなどにより、営業活動の結果取得した資金は14,705百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

前連結会計年度におきましては、投資活動の結果使用した資金は1,182百万円でありましたが、当連結会計年度は、有形固定資産の取得による支出が1,148百万円、関係会社株式の取得による支出が1,829百万円あったことなどにより、投資活動により使用した資金は3,543百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

前連結会計年度におきましては、財務活動の結果使用した資金は4,291百万円でありましたが、当連結会計年度は、短期借入金1,856百万円減少したこと、配当金の支払額が1,869百万円あったことなどにより、財務活動により使用した資金は4,068百万円となりました。

生産、受注及び販売の実績

(仕入実績)

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
衣料事業	41,172	96.3
雑貨事業	14,232	91.5
その他	61	104.1
合計	55,466	95.2

(注) 1.セグメント間取引については、相殺消去しております。
2.金額には、消費税等は含まれておりません。

(販売実績)

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
衣料事業	97,102	101.0
雑貨事業	34,968	102.2
その他	92	89.9
合計	132,163	101.3

(注) 1.セグメント間取引については、相殺消去しております。
2.金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による経営成績等の状況に関する認識及び分析、検討内容は次の通りであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表作成にあたって、見積りが必要となる事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する分析・検討内容

当社では、経営指標であるROE(自己資本利益率)12%の安定的達成のため、売上総利益率及び経常利益率の向上を重点施策としております。このため、各ブランドでは、新たな視点での集客力アップのため、プラスワンカテゴリー施策を実行するとともに、商品に関しては4週間を1シーズンとする4週MDの徹底と推進に努めております。また、売上高に占める販売費及び一般管理費の比率の低減のため、外部コンサルタント起用による経費削減、店舗におけるシフトの効率化を実施し、経常利益率向上に努めました。

この結果、ROEは、子会社合併に伴う税効果の影響がありますが、4.0ポイント増の15.9%となりました。また、売上総利益率は前年比0.6ポイント増の56.3%、経常利益率は0.9ポイント増の6.9%と改善いたしました。

主要損益項目の状況は以下の通りであります。

(売上高及び売上総利益)

売上高は前年比1.3%増加の132,163百万円となりました。売上高の詳細については、「(1)経営成績等の状況の概要 経営成績の状況及び 生産、受注及び販売の実績」をご参照ください。

差引売上総利益は前年比2.3%増加の74,386百万円となりました。

(販売費及び一般管理費、営業利益、経常利益)

販売費及び一般管理費については、売上高販売費及び一般管理費率は前年比0.2ポイント減少し、65,319百万円となりました。

営業利益は前年比14.3%増加の9,067百万円となり、経常利益は前年比17.1%増加の9,168百万円となりました。

(特別損益)

特別損失は、店舗の撤退、業態変更などによる固定資産除却損162百万円を計上するとともに、減損損失を387百万円を計上するなど合計564百万円計上しました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比47.6%増加の7,028百万円となりました。

経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載の通りであります。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(キャッシュ・フローの状況)

キャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。また、キャッシュ・フロー指標のトレンドは、以下のとおりであります。

	2017年2月期	2018年2月期	2019年2月期	2020年2月期
自己資本比率(%)	48.8	46.4	47.5	49.1
時価ベースの自己資本比率(%)	78.1	84.3	83.2	70.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	251.7	382.2	175.7	111.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	38.7	43.1	83.1	129.1

- (注) 1 自己資本比率 : 自己資本 / 総資産
 2 時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額 / 総資産
 3 キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー
 4 インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー / 利払い
 5 各指標はいずれも連結ベースの財務数値により算出しております。
 6 株式時価総額は発行済株式数をベースに計算しております。

(運転資金)

運転資金は、主に営業活動による現金収入によっておりますが、状況に応じて銀行借入により資金調達することとしております。

(出店に伴う資金等)

一般にテナント店舗の出店にあたり店舗賃借のための保証金の差入が必要ですが、当社グループは、一定金額及び一定期間以上の保証金については、原則として借入金により調達する方針をとっております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、総額1,751百万円であり、その主なものは、店舗内装設備等であります。なお、有形固定資産のほか、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(衣料事業)

設備投資額は1,362百万円であり、その主なものは、店舗内装設備等であります。

(雑貨事業)

設備投資額は385百万円であり、その主なものは、店舗内装設備等であります。

2 【主要な設備の状況】

2020年2月29日現在における各事業所の設備の状況、投下資本ならびに従業員の配置状況は次のとおりであります。

(1) 提出会社

2020年2月29日現在

事業所名 (セグメント)	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	期末 店舗数 (店)
		建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他有形 固定資産	保証金	合計		
衣料事業	店舗設備等	34	272 (3,056)	-	7,716	8,023	- (-)	-
雑貨事業	店舗設備等	27	103 (152)	-	3,334	3,464	- (-)	-
事務管理		206	277 (6,981)	159	166	811	41 (3)	-
合計		268	654 (10,190)	159	11,217	12,299	41 (3)	-

(2) 国内子会社

(株)パル

2020年2月29日現在

事業所名 (セグメント)	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	期末 店舗数 (店)
		建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他有形 固定資産	保証金	合計		
大阪府	店舗設備等	575	-	68	-	644	286 (158)	78
東京都	店舗設備等	839	-	122	-	961	692 (160)	128
その他	店舗設備等	2,020	-	272	-	2,293	1,010 (496)	291
衣料事業計	店舗設備等	3,435	-	463	-	3,898	1,988 (814)	497
大阪府	店舗設備等	224	-	46	-	271	144 (160)	31
東京都	店舗設備等	233	-	47	-	280	129 (181)	39
その他	店舗設備等	1,313	-	321	-	1,635	392 (927)	190
雑貨事業計	店舗設備等	1,771	-	416	-	2,188	665 (1,268)	260
事務管理		13	-	29	39	82	59 (-)	-
合計		5,220	-	909	39	6,169	2,712 (2,082)	757

その他国内子会社

2020年2月29日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	期末 店舗数 (店)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	その他 有形 固定資産	保証金	合計		
(株)マグスタイル	本社 (東京都渋谷区)	雑 貨	店舗	94	-	30	251	376	64 (62)	25
(株)ナイスクラブ	本社 (東京都渋谷区)	衣 料	店舗	338	-	87	1,211	1,637	436 (120)	114
(株)バレリー	本社 (大阪市中央区)	衣 料	店舗	120	-	20	340	480	112 (23)	30

- (注) 1 各資産の金額は帳簿価額であり、建設仮勘定を含んでおります。
 2 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(年間平均人員)は()内に外書しております。
 3 主要な建物を賃借しております。
 4 提出会社のリース契約による主な賃借設備は次のとおりであります。

名称	台数等	リース期間 (年)	年間リース料 (百万円)	リース契約残高 (百万円)
電子計算機一式	-	5	130	380

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

2020年2月29日現在における重要な設備の新設等の計画は次のとおりであります。

会社名	事業所名 (仮称)	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額(百万円)		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月
					総額	既支払額			
(株)パル	チャオパニック TYPY吉祥寺店ほか 計41店舗	-	衣料	店舗	1,447	-	自己資金	2020年3月	2021年2月
	3 coins大高店ほか 計17店舗	-	雑貨	店舗	503	-	自己資金	2020年3月	2020年12月

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	86,400,000
計	86,400,000

(注) 2020年1月14日開催の取締役会決議により、2020年3月1日付けで株式分割に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は86,400,000株増加し、172,800,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年2月29日)	提出日現在 発行数(株) (2020年5月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,136,000	46,272,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	23,136,000	46,272,000		

(注) 2020年1月14日開催の取締役会決議により、2020年3月1日付けで株式分割に伴う定款変更が行われ、発行済株式数は23,136,000株増加し、46,272,000株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2013年3月1日 (注)1	11,568,000	23,136,000		3,181		3,379

(注) 1 2013年3月1日に、2013年2月28日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主に対し、所有普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割いたしました。

2 2020年3月1日に、2020年2月29日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主に対し、所有普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行い、発行済株式総数が23,136,000株増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2020年2月29日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	26	23	30	160	4	3,118	3,361	
所有株式数(単元)	-	55,002	2,582	86,170	36,917	12	50,081	230,764	59,600
所有株式数の割合(%)	-	23.83	1.12	37.34	16.00	0.01	21.70	100.00	

- (注) 1 2020年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記及び下記の所有株式数については、当該株式分割前の所有株式数を記載しております。
- 2 自己株式1,137,322株は、「個人その他」に11,373単元、「単元未満株式の状況」に22株含まれております。
- 3 上記「その他の法人」の欄には証券保管振替機構名義の株式が9単元、また、「単元未満株式の状況」欄には証券保管振替機構名義の株式が14株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2020年2月29日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社スコッチ洋服店	大阪市中央区今橋4丁目1番3号	7,849,460	35.68
井上隆太	東京都世田谷区	1,824,668	8.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,754,900	7.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	856,000	3.89
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	588,524	2.68
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	549,220	2.50
井上英隆	大阪府吹田市	517,036	2.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	436,600	1.98
GOVERNMENT OF NORWAY	BANKPLASSEN 2,0107 OSLO 1 OSLO 0107 NORWAY	414,600	1.88
公益財団法人パル井上財団	大阪市中央区道修町3丁目6番1号	300,000	1.36
計		15,091,008	68.60

- (注) 1 2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記及び下記の所有株式数については、当該株式分割前の所有株式数を記載しております。
- 2 上記のほか当社所有の自己株式1,137,322株があります。
- 3 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
- | | |
|----------------------------|------------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,754,900株 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 856,000株 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 436,600株 |

- 4 2020年2月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、三井住友DSアセットマネジメント株式会社及びその共同保有者が2020年2月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として、当事業年度末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮しておりません。
- なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	東京都港区愛宕二丁目5番1号 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階	859,200	3.91
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	588,524	2.68
合計	-	1,447,724	6.58

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,137,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,939,100	219,391	
単元未満株式	普通株式 59,600		
発行済株式総数	23,136,000		
総株主の議決権		219,391	

(注) 1 2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記及び下記の所有株式数については、当該株式分割前の所有株式数を記載しております。

- 2 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ900株(議決権9個)及び14株含まれております。
- 3 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式22株が含まれております。

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社パルグループ ホールディングス	大阪市中央区道修町三丁目6番1号	1,137,300		1,137,300	4.92
計		1,137,300		1,137,300	4.92

(注) 2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、上記所有株式数については、当該株式分割前の所有株式数を記載しております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(2020年3月17日)での決議状況 (取得期間2020年3月18日～2020年4月30日)	900,000	1,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度末日現在の未行使割合	-	-
当期間における取得自己株式	71,300	83
提出日現在の未行使割合(%)	92.1	91.6

(注) 当社は2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当期間における取得自己株式数は、当該分割後の株式の取得であります。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	125	0
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 1 2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当事業年度については株式分割前の株式数を記載しております。

2 当期間における取得自己株式には、2020年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(単元未満株式の買増し請求 による譲渡)	60	0	-	-
保有自己株式数	1,137,322	-	2,345,944	-

(注) 1 2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当事業年度については株式分割前の株式数を、当期間については株式分割後の株式数を記載しております。

2 当期間における取得自己株式及び保有自己株式数には、2020年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、業績に対応した配当を行うことを基本とし、併せて安定的な配当の維持継続に留意するとともに、企業体質の一層の強化と今後の積極的な事業展開に備えて内部留保の充実も勘案して決定しております。

第48期(2020年2月期)の利益配当金につきましては、1株当たり年間配当を前事業年度より15円増配し、普通配当100円といたしました。

内部留保金につきましては、今後の事業展開に向けた財務体質の強化、経営基盤の確保等に活用し、事業の拡大に努めてまいり所存であります。

当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めています。

また、当社は、連結配当規制適用会社であります。

(注) 1 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2020年5月27日 定時株主総会決議	2,199	100.00

(注) 2 当社は2020年3月1日に普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

企業統治の体制

・コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当企業集団は、コーポレート・ガバナンスを、経営環境の変化に迅速に対応し、お客様や株主などステークホルダーの皆様の期待に応えるため、下記のとおり、経営の迅速性・健全性・透明性を確保することにあると理解しております。

(a) 経営の迅速性 ~ 経営意思決定の迅速化

(b) 経営の健全性 ~ 経営監視機能の強化、経営責任の明確化、コンプライアンス体制の充実

(c) 経営の透明性 ~ 適時、適切な情報開示

・当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要

当社は、監査役設置会社であり、4名の監査役で監査役会を構成しております。社外監査役は2名であります。取締役は10名で取締役会を構成しており、社外取締役は2名であります。原則として監査役及び執行役員を含む役員全員が出席する定例取締役会を、月1回開催しております。社外役員の招聘による経営監視機能の強化の他、コンプライアンス委員会及びリスク管理委員会を設け、経営方針・経営戦略の中立性・客観性を確保しております。又、取締役の責任を明確にする為、2006年5月開催の株主総会にて定款変更を行い、取締役の任期を短縮し1年としております。また、業務執行機能の迅速化・強化のために、執行役員制度も導入しております。また、グループ全体の事業戦略、経営課題、財務事項など重要事項の審議や通達を行う機関として、当社取締役会及びグループ中核会社社長をメンバーとする「グループ経営会議」を3カ月に1回開催しております。

各機関の構成員は下記の通りであります。(2020年5月29日現在)

< 取締役会 >

取締役会長 井上英隆(議長)、取締役社長 井上隆太、取締役 松尾勇、取締役 有光靖治、
取締役 小路順一、取締役 大谷和正、社外取締役 樋口久幸、取締役 児島宏文、
取締役 渡辺隆代、社外取締役 寺西賢作

< 監査役会 >

常勤監査役 宇都宮幸雄(議長)、監査役 三原雅博、社外監査役 平野恵稔、
社外監査役 新井良亮

< コンプライアンス委員会 >

取締役社長 井上隆太(委員長)、取締役会長 井上英隆、取締役 有光靖治、
取締役 小路順一、執行役員 為田招志、執行役員 嶋尾博光、執行役員 藤井利雄

< リスク管理委員会 >

取締役社長 井上隆太(委員長)、取締役会長 井上英隆、取締役 有光靖治、
取締役 小路順一、執行役員 為田招志、執行役員 山ノ内基文、執行役員 嶋尾博光

< グループ経営会議 >

取締役会長 井上英隆(議長)、取締役社長 井上隆太、取締役 松尾勇、取締役 有光靖治、
取締役 小路順一、取締役 大谷和正、社外取締役 樋口久幸、取締役 児島宏文、
取締役 渡辺隆代、社外取締役 寺西賢作、(株)マグスタイル取締役社長 宮崎志乃、
(株)クレセントスタッフ取締役社長 杉浦正枝、帕璐(上海)商貿有限公司董事長 山本修司

・当社がコーポレート・ガバナンスを採用する理由

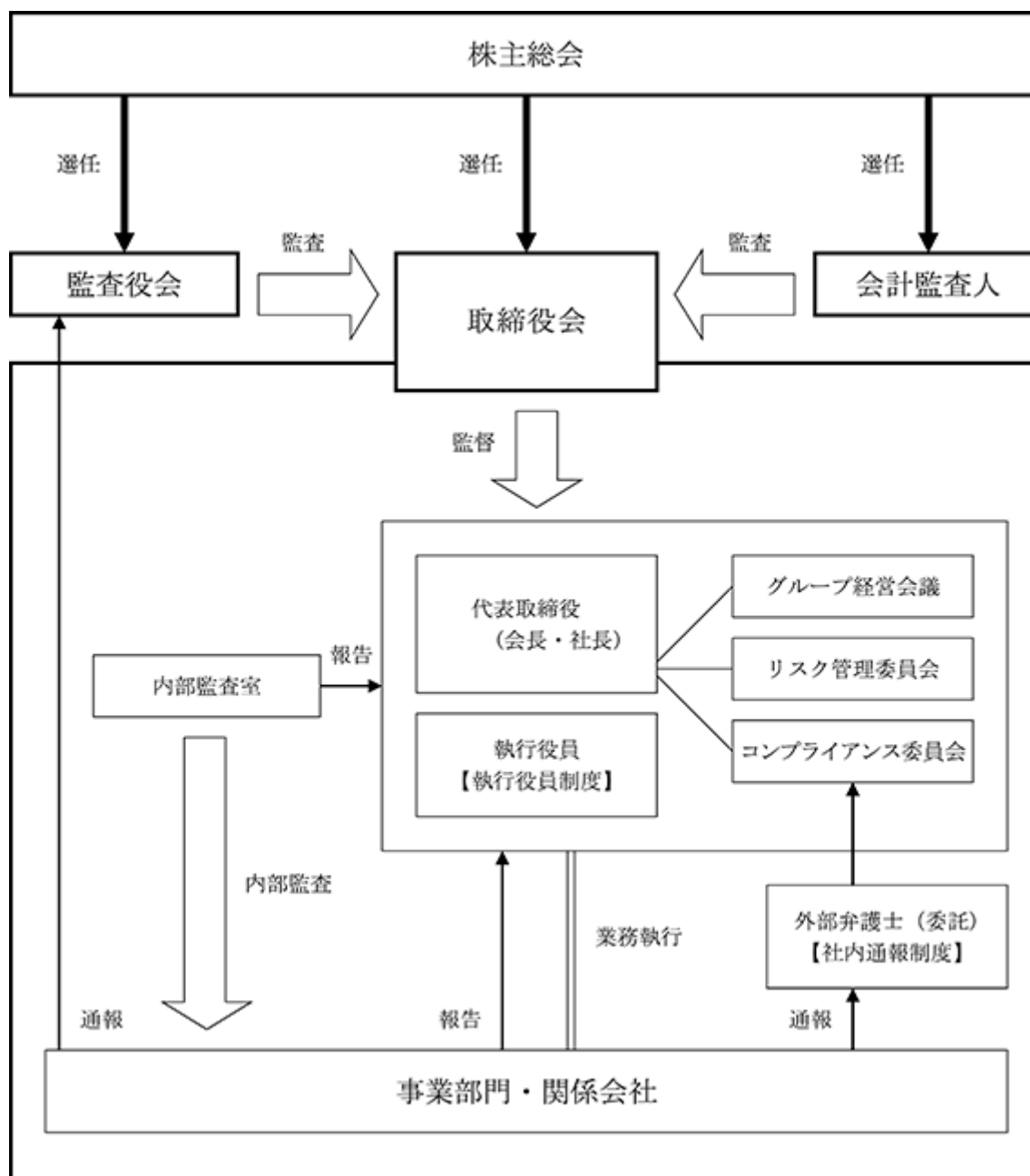
当社は、上記 . に記載のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考えを実現するため、上記 . に概要を記載のコーポレート・ガバナンスの体制を採用しており、執行役員制度の導入等により経営の迅速性を図り、監査役設置会社形態を基本に経営監視機能の強化を図るとともに各種委員会を設置し独立性のある社外取締役や社外監査役の招聘等により経営の健全性即ち経営方針・経営戦略に中立性・客観性を確保しております。また、投資者が当社への投資価値を的確に判断するために必要な会社情報を適時適切に開示する体制を構築しております。

(適時・適切な情報開示体制)

当企業集団は、投資者が当社への投資価値を的確に判断するために必要な会社情報を適時適切に開示する

ことを基本姿勢として、ディスクロージャーポリシーを制定し、開示基準を明確化しております。重要な内部情報は、所定の手続きを経て、内部情報管理担当役員にて一元管理され、取締役会にて開示基準に合致すると判断された重要情報は、手続き上可能な限り迅速に開示しております。

(当社のコーポレート・ガバナンスの模式図)



・内部統制システム及びリスク管理体制の整備状況

(A)内部統制システムに対する基本的考え方

当社は、内部統制システムを、業務の有効性・効率性、コンプライアンス、財務報告の信頼性、資産保全を図り、お客様や株主その他ステークホルダーの皆様との信頼関係を深め、社会的責任を重視した経営を持続的に推進する為、その支えとなる主として下記の体制・システムと理解しております。

- a. コンプライアンス体制
- b. リスク管理体制
- c. 子会社管理体制
- d. 取締役の職務の効率性を確保するための体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

(B)内部統制システムの整備状況

a.コンプライアンス体制

『企業行動憲章』及び『従業員行動規範』を制定・文書化し、企業文化として定着するよう全従業員への徹底を心がけております。コンプライアンス委員会の管理のもと、内部通報制度として、法律事務所と提携し内部通報ホットラインを設置しており、社員に対してその周知を図り、かつその適切な運用を維持することにより、法令違反その他のコンプライアンス上の問題の把握と解決に努めております。

b.リスク管理体制の整備状況

当社の事業内容や経理・財務状況等におけるリスクを役員及び幹部職員で構成するリスク管理委員会にて掌握し、役員、幹部職員が共有化し、部門別に管理しております。又、万一リスクが発生した場合、又はリスクの発生が予見される場合は、リスクの内容及び程度等に応じて、社長を本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等を含む外部アドバイザーチームを適切に組織する等、損害の拡大を防止しこれを最小限に止めるよう、迅速な対応を行います。

c.子会社管理体制

グループ全体の事業戦略、経営課題、財務状況などの重要事項について、当社取締役会及びグループ中核会社社長をメンバーとするグループ経営会議にて定期的に審議や通達を行っております。

また、各子会社等は、当社からの経営管理・指導内容、又は当社との間の取引・会計処理が、コンプライアンス上問題があると認められた場合や、自社においてコンプライアンスやリスクに関する重要な事象が発生若しくは発生が予見される場合には、内容に応じて、速やかに当社の内部監査室など関係各部室に直接報告するものとし、当該報告を受けた部室は、当社の場合に準じた対応をする一方で、監査役にも、遅滞なく報告を行うこととしています。

d.取締役の職務の効率性を確保するための体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

・取締役、取締役会及び業務執行の状況

取締役会は、監査役の出席のもと、原則として毎月1回、その他必要に応じて開催し、年度計画や中期経営計画に基づく各執行ラインの活動を、その進捗状況に関する実績報告を通して、業務執行状況を監督し、経営上の重要事項を審議・決定しております。なお、社外取締役を2名招聘・選任し、適時適切な助言をいただいております。

業務の執行は、代表取締役社長が、取締役会の決定した基本方針に基づき、業務執行上の最高責任者として、当社の業務を統括しております。各取締役の業務の執行は、業務分掌規程、職務権限規程に基づいて行われており、取締役会において、各部門間の有効な連携を確保し、業務の執行に関する情報の共有と意見交換を行っております。また、執行役員制度を導入し、業務執行機能の迅速化を図っております。

・顧問弁護士

弁護士法人大江橋法律事務所と顧問契約を締結している他、内部通報制度上の通報ラインの窓口業務やその他の法的サービスを継続的に受けております。

・会議体および委員会等

* グループ経営会議

グループ全体の事業戦略、経営課題、財務事項など重要事項の審議や通達を行う機関として、当社取締役及びグループ中核会社社長をメンバーとする「グループ経営会議」を3カ月に1回定期的に開催しております。

* コンプライアンス委員会

コンプライアンスに関する基本方針に付いて、検討し答申致しております。

* リスク管理委員会

リスク管理・危機管理に関する基本方針に付いて、検討し答申致しております。

・監査役、監査役会及び監査の状況

(3) 監査の状況に記載のとおりであります。

e.反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方とその整備状況

当社では、従来から、反社会的勢力とは一切の接触を持たず、反社会的勢力には毅然とした対応をす

ることを基本方針とし、総務部が、弁護士・警察等と緊密に連携を取りつつ対応する体制をとっております。

その方針及び取組み姿勢は、企業行動憲章、パル従業員行動規範、マニュアル等に記載し、全役職員に対し、周知徹底を図っております。また、総務部を窓口として、警察、企業防衛対策協議会等と反社会的勢力に関する情報の交換を行い、必要な情報は、イントラネット掲載、朝礼その他の会議体での連絡等を通じて、全役職員に対し、周知徹底を図っております。

その他に、当社の所定契約書には全て暴排条項を明記するとともに、契約締結手続に関する社内のルールについても改定し、反社会的勢力の排除に向けた体制整備を行っております。

取締役及び監査役の定数(2020年5月29日現在)

- ・当社定款第17条において、当社の取締役は、20名以内とする旨を定めております。
- ・なお、当社定款第23条において、当社の監査役は、4名以内とする旨を定めております。

取締役の選任決議要件

- ・当社定款第18条第1項において、取締役の選任は、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定めております。
- ・当社定款第18条第2項において、取締役の選任については、累積投票によらないものとする旨を定めております。

株主総会の特別決議要件

株主総会の円滑な運営を行うため、当社定款第14条第2項において、会社法第309条第2項の規定による株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う旨を定めております。

取締役会決議でできる株主総会決議事項

- ・取締役及び監査役が職務の遂行するにあたり期待される役割を十分に発揮できる環境を整えるため、会社法第423条第1項の規定に基づき、当社定款第29条において、取締役会の決議をもって、取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の当会社に対する損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定めております。
- ・株主への利益還元を機動的に行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、当社定款第31条第2項において、取締役会の決議により、毎年8月31日の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定めております。
- ・経営環境の変化に応じた機動的な資本政策を実行するため、会社法第165条第2項の規定に基づき、当社定款第32条において、取締役会の決議により、市場取引等による自己株式の取得を行うことができる旨を定めております。

利益相反行為

- ・取締役が他社(グループ内を含む)の取締役に就任の時点で抵触するか否かを取締役会で確認し、四半期毎に取締役会で取引内容、取引額の報告を受け、かつ、承認するようにしております。
- ・会社役員又は支配株主との間の利益が相反する取引は、該当ございません。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性13名 女性1名 (役員のうち女性の比率7.1%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)(注2)
代表取締役 会長	井上英隆	1935年9月13日生	1961年9月 株式会社スコッチ洋服店設立 代表取締役社長(現任) 1973年10月 当社設立 代表取締役社長 1981年5月 英・インターナショナル株式会社設立 代表 取締役社長 1982年3月 株式会社アンジェ(ジェネラル株式会社)設 立 代表取締役社長 1984年11月 株式会社ピー・エム・ビー(現 株式会社P. M.フロンティア)設立 代表取締役社長 2000年2月 株式会社インヴォークモード設立 取締役 2003年4月 株式会社ナイスクラブ取締役会長(現任) 2008年5月 当社代表取締役会長(現任) 2009年7月 株式会社バレリー設立 代表取締役社長 2010年5月 株式会社バレリー代表取締役会長 2014年5月 ジェネラル株式会社代表取締役会長 2016年9月 株式会社パル代表取締役会長(現任)	(注)1	1,034,072
代表取締役 社長	井上隆太	1965年6月8日生	1989年4月 帝人株式会社入社 1995年5月 当社取締役 2007年3月 当社専務取締役管理本部長兼 業務改革推進室長 2008年5月 当社代表取締役社長(現任) 2012年4月 株式会社ナイスクラブ取締役(現任) 2016年9月 株式会社パル取締役(現任)	(注)1	3,649,336
取締役 兼 執行役員 副社長	松尾勇	1947年4月20日生	1965年4月 株式会社新南海ストア入社 1973年10月 当社入社 1983年3月 当社取締役 1985年4月 当社常務取締役 1988年4月 当社専務取締役 2000年4月 当社取締役 2007年3月 当社専務取締役 2007年5月 株式会社P.M.フロンティア代表取締役社長 (現任) 2009年5月 当社取締役副社長 2013年5月 当社取締役兼執行役員副社長(現任) 2016年9月 株式会社パル代表取締役社長(現任)	(注)1	20,864
取締役 兼 執行役員 副社長 兼 内部監査室長 兼 管理本部長	有光靖治	1934年4月23日生	1953年4月 帝人株式会社入社 1972年8月 株式会社ウィンクル出向 取締役管理本部長 1986年12月 帝人ワオ株式会社出向 取締役管理本部長 1994年12月 帝人セントラル興産株式会社入社 1998年3月 当社入社 1998年4月 当社取締役管理本部長 2007年3月 当社常務取締役内部監査室長 2011年5月 当社取締役副社長内部監査室長兼管理本部管 掌 2013年5月 当社取締役兼執行役員副社長内部監査室長兼 管理本部管掌 2016年9月 当社取締役兼執行役員副社長内部監査室長兼 管理本部長(現任) 株式会社パル取締役(現任)	(注)1	73,968
取締役	小路順一	1963年4月4日生	1986年3月 当社入社 2001年5月 当社取締役 2004年4月 株式会社マグスタイル代表取締役社長 2004年4月 株式会社ナイスクラブ取締役 2007年3月 当社専務取締役営業本部長 2012年4月 株式会社ナイスクラブ代表取締役社長(現 任) 2013年5月 当社取締役兼専務執行役員営業本部長 2016年9月 当社取締役兼専務執行役員 株式会社パル取締役兼専務執行役員営業本 部長(現任) 2020年5月 当社取締役(現任)	(注)1	101,136

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	大谷 和正	1953年3月13日生	1970年4月 株式会社メンズショップフタバ入社 1980年5月 当社入社 1994年4月 当社取締役 1999年4月 当社常務取締役 2000年4月 当社取締役 2007年3月 当社専務取締役 GMD 2013年5月 当社取締役兼専務執行役員 GMD 2016年9月 当社取締役兼専務執行役員 株式会社パル取締役兼専務執行役員 GMD (現任) 2020年5月 当社取締役 (現任)	(注)1	78,876
取締役	樋口 久幸	1939年8月18日生	1958年4月 株式会社住友銀行入社(現株式会社三井住友銀行) 1990年4月 同行梅田支店長 1994年8月 同行退職 レッキス工業株式会社専務取締役 1995年4月 REX INTERNATIONAL U.S.A. CEO 1996年3月 蘇州力克士機電工業有限公司会長 2000年5月 当社監査役(社外) 2004年6月 レッキス工業株式会社取締役会長 2008年5月 当社取締役(社外)(現任) 2010年7月 レッキス工業株式会社取締役相談役 2014年6月 同社退職 2017年5月 株式会社パル取締役(社外)(現任)	(注)1	
取締役	児島 宏文	1960年11月30日生	1983年3月 当社入社 2001年5月 当社取締役 2010年5月 当社常務取締役 2013年5月 当社常務執行役員 2015年5月 当社取締役兼常務執行役員 2016年9月 当社取締役兼常務執行役員 株式会社パル取締役兼常務執行役員 2019年5月 当社取締役兼専務執行役員 株式会社パル取締役兼専務執行役員営業副本部長(現任) 2020年5月 当社取締役(現任)	(注)1	60,336
取締役	渡辺 隆代	1962年2月9日生	1984年4月 株式会社大同酸素入社(現エア・ウォーター株式会社) 1987年4月 同社退職 2003年2月 株式会社スコッチ洋服店監査役 2011年1月 株式会社スコッチ洋服店取締役(現任) 2014年7月 株式会社Tスコッチ洋服店代表取締役 2018年5月 株式会社パル取締役(現任) 2019年5月 当社取締役(現任)	(注)1	330,000
取締役	寺西 賢作	1951年11月28日生	1975年4月 株式会社住友銀行入社(現株式会社三井住友銀行) 1998年10月 住友キャピタル証券株式会社大阪支店引受部長 2001年4月 大和証券エスエムピーシー株式会社大阪支店担当役員付部長 2004年4月 同社退職 2004年5月 株式会社鴻池組常任顧問 2016年10月 同社代表取締役、取締役副社長(社外) 2017年11月 同社退職 2017年12月 山田コンサルティンググループ株式会社大阪支店シニアアドバイザー 2019年5月 当社取締役(社外)(現任)	(注)1	

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役 常勤	宇都宮 幸雄	1948年10月31日生	1971年4月 2000年2月 2006年5月 2007年5月 2008年5月 2013年5月 2019年5月	吉富製薬株式会社入社(現株式会社田辺三菱製薬) 当社入社 当社執行役員 当社取締役 当社取締役管理本部長 当社常務執行役員 当社監査役(現任)	2019年5月～ 2023年5月	32,672
監査役	三原 雅博	1952年12月13日生	1976年4月 2003年5月 2006年4月 2007年5月 2015年5月 2016年9月	株式会社三和銀行入社(現株式会社三菱UFJ銀行) 横浜鋼業株式会社へ出向 同社常務取締役 当社へ出向 当社入社 当社監査役(現任) 株式会社パル監査役	2019年5月～ 2023年5月	
監査役	平野 恵稔	1963年5月9日生	1989年4月 1995年4月 2002年8月 2014年6月 2020年5月	大阪弁護士会登録 大江橋法律事務所(現 弁護士法人大江橋法律事務所)入所 同事務所パートナー 弁護士法人大江橋法律事務所社員(現任) ㈱ベネフィットジャパン社外監査役(現任) 当社監査役(社外)(現任)	2020年5月～ 2024年5月	
監査役	新井 良亮	1946年9月1日生	1966年4月 1987年4月 2000年6月 2009年6月 2011年6月 2012年6月 2017年6月 2018年6月 2019年6月 2020年5月	日本国有鉄道入社 民営化により東日本旅客鉄道株式会社入社 同社取締役事業創造本部担当部長 同社代表取締役副社長 同社代表取締役副社長兼株式会社ルミネ代表取締役社長 東日本旅客鉄道株式会社代表取締役副社長 退任 株式会社ルミネ代表取締役会長 同社取締役相談役 同社相談役(現任) 当社監査役(社外)(現任)	2020年5月～ 2024年5月	
計						5,381,260

- (注) 1 任期は、2020年5月～2021年5月であります。
- 2 2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「所有株式数(株)」については、株式分割後の株式数を記載しております。
- 3 取締役の樋口久幸及び寺西賢作は社外取締役であります。
- 4 監査役の平野恵稔及び新井良亮は社外監査役であります。
- 5 代表取締役社長 井上隆太は、代表取締役会長 井上英隆の長男であります。
- 6 取締役渡辺隆代は、代表取締役会長 井上英隆の長女であります。

社外取締役及び社外監査役

・社外取締役及び社外監査役の役割は、中立・公正な立場を保持し、株主の負託を受けた独立機関として、経営の中立性・客観性の確保を担保することであると理解しております。

・社外取締役である樋口取締役につきましては、本人と当社及び当社代表取締役の間には、何らの人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はなく、又、本人が過去に勤務しておりました金融機関は当社のメインバンクであります。預金が借入金を大幅に超過する当社の財務状況から観て、意思決定に対して影響を与える取引関係はなく、本人も同行を退社後相当年数経過していることから、独立性を有しており、独立役員としての資格を十分有していることから、東京証券取引所に対し、独立役員として届出しております。同氏は金融機関を経た後、内外に事業展開する企業の経営に長年携わり、金融・企業経営に関する豊富な知見を有し、かかる経験に基づく知見と見識を当社グループの経営に活かしていただくため、社外取締役として選任しております。

・社外取締役である寺西取締役につきましては、本人と当社及び当社代表取締役の間には、何らの人的関係、資本的关系又は取引関係その他の利害関係はなく、又、本人が過去に勤務しておりました金融機関は当社のメインバンクであります。預金が借入金を大幅に超過する当社の財務状況から観て、意思決定に対して影響を与える取引関係はなく、本人も同行を退社後相当年数経過していることから、独立性を有しており、独立役員としての資格を十分有していることから、東京証券取引所に対し、独立役員として届出しております。同氏は金融機関を経た後、企業経営に長年携わり、金融・企業経営に関する豊富な知見を有し、かかる経験に基づく知見と見識を

当社グループの経営に活かしていただくため、社外取締役として選任しております。

・社外監査役である平野監査役につきましては、当社が継続的に法的サービスを受けております弁護士法人大江橋法律事務所の社員でありますことから、独立役員として指定しておりませんが、当社が支払う法的サービスの対価は、当該弁護士法人の規模に比し少額であり、本人は顧問契約に含まれず且つ当社の依頼案件に関与しておりませんので、独立性が疑われるような属性は存在せず、同氏の弁護士としての専門的な見識を当社の監査に反映していただくため、社外監査役に選任しております。

・社外監査役である新井監査役につきましては、過去5年間において、当社と店舗の賃貸借取引関係等があり特定関係事業者(主要な取引先)であります株式会社ルミネの業務執行者であり、現在は同社の相談役を兼務しておりますので、独立役員として指定しておりませんが、本人と当社との間に特別な利害関係はありません。同氏は電鉄や流通業界での豊富な企業経営経験により培われた高い見識を有しており、経営全般の監視と有効な助言を期待し、社外監査役に選任しております。

・社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針を特段設けておりませんが、選任にあたっては、会社法に定める社外性の要件及び東京証券取引所の独立役員の基準等を参考にしております。

・社外役員と締結している責任限定契約の内容の概要

当社は、社外役員と責任限定契約の締結は行っていません。

・社外取締役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

社外取締役につきましては、取締役会において、内部監査、監査役監査及び会計監査等その他内部統制及びコンプライアンス等に係る重要事項の報告を受けることにより情報を共有する他、必要な場合は、意見を表明します。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役制度を採用し、4名の監査役で監査役会を構成しており、うち2名が社外監査役であります。監査役は、取締役会やグループ経営会議等の重要な会議に出席し、適時適切な意見の表明又は助言を通して、もしくは監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づく業務や財産の状況の監査を通して、取締役の業務執行を監査しております。また、いつでも取締役等に対し報告を求めることができる他、代表取締役との定期的な意見交換会の場も設けております。

また、監査役は、会計監査人や内部監査室と情報を共有化しており、監査の効率化と強化に努めております。この他、監査業務に必要な場合には、外部専門家の助言を受ける機会は保証されており、補助者の配置等も要求できます。

2020年5月29日現在の現任の各監査役の選任理由は下記の通りです。

地位	氏名	選任理由
常勤監査役	宇都宮幸雄	経理会計業務に精通しており、財務及び会計に関する長年の実務経験とそこで培った知見に基づき、中立的・客観的な視点から適切に職務を遂行できるものと考えております。
監査役	三原雅博	銀行業務に精通しており、豊富な金融関連知識を活かすことにより、中立的・客観的な視点から適切に職務を遂行できるものと考えております。
監査役	平野恵稔	弁護士としての長い経験で培われた企業法務に関する専門的な見識を有しており、中立的・客観的な視点から適切に職務を遂行できるものと考えております。
監査役	新井良亮	電鉄や流通業界での豊富な企業経営経験により培われた高い見識を有しており、中立的・客観的な視点から適切に職務を遂行できるものと考えております。

内部監査の状況

内部監査室は、代表取締役直轄の組織として、業務執行機関から独立して設置しており、員数は3名であります。内部監査室は、策定された内部監査方針、内部監査計画に基づき、定期的に、店舗等の営業部門及び管理部門に対し、会計及び業務プロセスの監査を行い、法令や内規の遵守状況や経営活動全般の管理・運営状況を検討・評価し、監査結果を代表取締役及び取締役会に定期的に報告しております。

会計監査の状況

当社は、有限責任 あずさ監査法人との間で、監査契約を締結しており、法律の規定に基づいた会計監査を実施しております。必要に応じて、監査役へは、監査報告・意見交換により、情報を共有化しており、監査の効率化と強化に努めております。なお、当社と当社の会計監査人若しくは監査に従事する当該監査法人の業務執行社員との間には、特別の利害関係はありません。

a. 業務を執行した公認会計士の氏名及び役職名

氏名	役職名
余野憲司	指定有限責任社員 業務執行社員
弓削亜紀	指定有限責任社員 業務執行社員

b. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士	15名
その他	7名

c. 監査公認会計士等の評価及び選定した理由

監査役会は、会計監査人が実施した監査について報告を受けるとともに、会計監査人の適格性、独立性、監査の実施状況や監査体制及び品質管理体制等について評価を実施しております。また、財務経理部門等から会計監査人の監査の実施状況について確認しております。これらの結果、監査役会は、会計監査人として有限責任 あずさ監査法人を選定することが適格であると判断しております。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める解任事由に該当し、解任が相当と認められる場合には、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任します。

また、上記の場合のほか、会計監査人の適格性その他に問題が生じ、会計監査人が適正に監査を遂行することが困難であると認められる場合には、監査役会は、会計監査人の変更のため、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定します。

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令(平成31年1月31日 内閣府令第3号)による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56)d(f) から の規定に経過措置を適用しております。

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	40	-	40	-
連結子会社	10	-	10	-
合計	50	-	50	-

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、報酬等の額には、これらの合計額を記載しております。

b. その他の重要な報酬の内容

・前連結会計年度

該当事項はありません。

・当連結会計年度

該当事項はありません。

c. 監査公認会計士等の当社に対する非監査業務の内容

・前連結会計年度

該当事項はありません。

・当連結会計年度

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査業務に係る報酬につきましては、監査法人の見積りに基づき、当社の規模及び事業の特性、監査日数等を勘案した上で、1年ごとに、監査役会の同意を得て、適切に決定しております。また、非監査業務に係る報酬につきましては、非監査業務の内容等を勘案した上で、監査法人の見積りに基づき、発生の都度、監査役会の同意を得て、適切に決定しております。

e. 監査役会が会社法第399条第1項に同意した理由

監査役会は、会計監査人及び社内関係部署から必要な資料の提出と報告を受け、会計監査人の監査計画の内容、過年度を含む職務遂行状況及び報酬の見積りの算定根拠などを確認した上で、本監査報酬について妥当な水準と判断し、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等

・役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員 の員数(名)
		基本報酬	賞与	業績連動報酬	
取締役(社外取締役 を除く)	463	48	415	-	8
監査役(社外監査役 を除く)	20	15	5	-	2
社外役員	25	18	6	-	4

・提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

氏名	連結報酬等の 総額 (百万円)	役員区分	会社区分	報酬等の種類別の総額(百万円)		
				基本報酬	賞与	業績連動報酬
井上英隆	119	取締役	提出会社	-	85	-
		取締役	連結子会社 (株)パル	34	-	-

(注) 連結報酬等の総額が1億円以上である者に限定して記載しております。

・使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

・取締役及び監査役に対する報酬等の決定方針

取締役及び監査役に対する報酬等は、当社定款第22条及び第28条において、それぞれ、株主総会の決議をもってこれを定めることとしております。

取締役に关しましては、2011年5月26日開催の第39回定時株主総会において、年額1,000百万円以内(但し、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。また、内、社外取締役分を50百万円以内とする)と決議いただいております。決議時の取締役の員数は14名であります。

監査役に关しましては、2007年5月24日開催の第35回定時株主総会において、年額100百万円以内と決議いただいております。決議時の監査役の員数は4名であります。

なお、2013年5月29日開催の第41回定時株主総会において、第42期以降は取締役及び監査役の賞与は、既にご承認いただいている報酬の範囲内で支給することとし、役員賞与と支給決議案を株主総会に上程しないことについてご承認いただいております。

当社では、役員の報酬等の額又はその算定方法を決定する方針に关しましては、持続的成長の実現と優秀な人材を確保するためのインセンティブになるべきであると考えており、その内容は代表取締役会長の意見を基に、取締役会、監査役会の協議を経て内規としております。

取締役及び監査役の基本報酬は、各役員の地位、責任の内容等に応じて内規で決定されている年俸額を分割月額支給しております。役員賞与は業績連動しており、内規に従って、一定の調整を行った後の連結経常利益率に応じて定められている係数を、連結当期純利益に乗じた金額を役員賞与原資の総額とし、同じく内規に従って、寄与度・貢献度に応じた各役員への支給額を算定の上、取締役に关しては取締役会、監査役に关しては監査役会の協議により決定されております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、純投資目的である投資株式とは、時価の変動により利益を得ることを目的として保有する株式とし、純投資目的以外の目的である投資株式とは、それ以外の目的で保有する株式(政策保有株式)としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、政策保有株式について、中長期的な企業価値の向上のための経営戦略の一環として、また、取引先との良好な関係を構築し、事業の円滑な推進を図るために必要と判断した場合に株式を保有する方針であります。政策保有株式については、毎年取締役会において保有目的の適切性や経済合理性を検証しております。その上で継続して保有する必要がないと判断した株式は売却を進める方針であります。

- b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式	3	764

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (百万円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式	-	-

- c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的及び 定量的な保有効果(注)	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
住友不動産(株)	225,000	225,000	店舗開発のノウハウに優れており、良好な関係を維持することで優良な店舗の出店を実現していくため保有しているものです。	有
	758	936		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,282	1,282	安定的な資金調達や金融取引等の取引関係を維持・構築するため保有しているものです。	有
	4	5		
(株)みずほフィナンシャルグループ	12,000	12,000	安定的な資金調達や金融取引等の取引関係を維持・構築するため保有しているものです。	有
	1	2		

(注) 定量的な保有効果に関しましては記載が困難であります。毎年取締役会において、保有目的の適切性や経済合理性を検証しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下、「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成30年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)及び事業年度(2019年3月1日から2020年2月29日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等に反映できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研鑽を重ねております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,633	52,727
受取手形及び売掛金	5,623	6,435
商品及び製品	10,412	7,829
原材料及び貯蔵品	26	18
その他	871	830
貸倒引当金	0	-
流動資産合計	62,566	67,842
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,234	6,022
機械装置及び運搬具（純額）	4	3
土地	546	546
リース資産（純額）	1,138	972
その他（純額）	229	234
有形固定資産合計	1 8,153	1 7,780
無形固定資産	808	690
投資その他の資産		
投資有価証券	5 962	5 2,769
差入保証金	2 13,088	2 13,017
繰延税金資産	1,694	2,308
その他	5 524	5 794
貸倒引当金	73	247
投資その他の資産合計	16,197	18,641
固定資産合計	25,159	27,112
資産合計	87,726	94,954

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,867	3 20,814
短期借入金	3,650	1,794
1年内返済予定の長期借入金	2 3,945	2 4,698
未払費用	2,124	2,440
未払法人税等	1,592	276
賞与引当金	1,807	1,737
役員賞与引当金	326	427
返品調整引当金	0	0
ポイント引当金	75	314
その他	2,969	3,500
流動負債合計	33,358	36,004
固定負債		
長期借入金	2 8,685	2 8,515
退職給付に係る負債	901	1,046
役員退職慰労引当金	131	134
債務保証損失引当金	174	-
長期未払金	98	49
リース債務	960	762
資産除去債務	1,690	1,743
繰延税金負債	19	4
その他	66	65
固定負債合計	12,728	12,323
負債合計	46,087	48,327
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,181	3,181
資本剰余金	4,469	4,469
利益剰余金	35,811	40,969
自己株式	2,088	2,088
株主資本合計	41,373	46,531
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	308	183
為替換算調整勘定	19	22
退職給付に係る調整累計額	23	65
その他の包括利益累計額合計	265	96
純資産合計	41,639	46,627
負債純資産合計	87,726	94,954

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 3月 1日 至 2019年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2019年 3月 1日 至 2020年 2月 29日)
売上高	130,474	132,163
売上原価	1 57,774	1 57,776
売上総利益	72,700	74,386
返品調整引当金繰入額	0	0
差引売上総利益	72,700	74,386
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	2,828	3,073
ポイント引当金繰入額	75	314
運送費及び保管費	4,160	4,142
貸倒引当金繰入額	0	0
給料手当及び賞与	18,628	18,729
賞与引当金繰入額	1,807	1,737
役員賞与引当金繰入額	326	427
退職給付費用	142	140
役員退職慰労引当金繰入額	5	4
福利厚生費	3,391	3,404
賃借料	20,087	19,895
リース料	118	143
その他	13,195	13,307
販売費及び一般管理費合計	64,766	65,319
営業利益	7,933	9,067
営業外収益		
受取利息	1	1
受取賃貸料	12	14
持分法による投資利益	-	158
その他	80	75
営業外収益合計	94	249
営業外費用		
支払利息	125	112
貸倒引当金繰入額	-	17
債務保証損失引当金繰入額	14	-
持分法による投資損失	13	-
その他	42	18
営業外費用合計	195	148
経常利益	7,832	9,168
特別利益		
固定資産売却益	2 310	-
受取補償金	198	-
移転補償金	242	-
特別利益合計	751	-

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 3月 1日 至 2019年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2019年 3月 1日 至 2020年 2月 29日)
特別損失		
固定資産除却損	3 266	3 162
リース解約損	3	3
減損損失	4 475	4 387
関係会社株式売却損	-	10
災害による損失	136	-
特別損失合計	882	564
税金等調整前当期純利益	7,701	8,604
法人税、住民税及び事業税	3,070	2,134
法人税等調整額	129	557
法人税等合計	2,941	1,576
当期純利益	4,760	7,028
親会社株主に帰属する当期純利益	4,760	7,028

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
当期純利益	4,760	7,028
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	124
為替換算調整勘定	8	1
退職給付に係る調整額	27	42
持分法適用会社に対する持分相当額	5	1
その他の包括利益合計	53	169
包括利益	4,814	6,858
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,814	6,858
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,181	4,469	32,700	2,088	38,263	267	5	50	211	38,475
当期変動額										
剰余金の配当			1,649		1,649					1,649
親会社株主に帰属する当期純利益			4,760		4,760					4,760
自己株式の取得				0	0					0
自己株式の処分					-					-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						40	13	27	53	53
当期変動額合計	-	-	3,110	0	3,110	40	13	27	53	3,164
当期末残高	3,181	4,469	35,811	2,088	41,373	308	19	23	265	41,639

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	3,181	4,469	35,811	2,088	41,373	308	19	23	265	41,639
当期変動額										
剰余金の配当			1,869		1,869					1,869
親会社株主に帰属する当期純利益			7,028		7,028					7,028
自己株式の取得				0	0					0
自己株式の処分		0		0	0					0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						124	3	42	169	169
当期変動額合計	-	0	5,158	0	5,157	124	3	42	169	4,988
当期末残高	3,181	4,469	40,969	2,088	46,531	183	22	65	96	46,627

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,701	8,604
減価償却費	1,837	1,878
減損損失	475	387
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	173
受取利息及び受取配当金	7	9
支払利息	125	112
受取補償金	198	-
移転補償金	242	-
持分法による投資損益(は益)	13	158
売上債権の増減額(は増加)	428	812
たな卸資産の増減額(は増加)	502	2,590
仕入債務の増減額(は減少)	2,234	3,859
賞与引当金の増減額(は減少)	284	70
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5	3
役員賞与引当金の増減額(は減少)	223	101
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	96	87
返品調整引当金の増減額(は減少)	0	0
債務保証損失引当金の増減額(は減少)	14	174
ポイント引当金の増減額(は減少)	58	238
有形固定資産除却損	270	166
固定資産売却損益(は益)	310	-
関係会社株式売却損益(は益)	-	10
未払消費税等の増減額(は減少)	97	887
その他	449	370
小計	12,195	18,247
利息及び配当金の受取額	7	8
利息の支払額	124	113
役員退職慰労金の支払額	-	2
補償金の受取額	198	242
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	1,897	3,677
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,378	14,705

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年 3月 1日 至 2019年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 2019年 3月 1日 至 2020年 2月 29日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,622	1,148
有形固定資産の売却による収入	552	-
貸付けによる支出	55	300
貸付金の回収による収入	-	55
無形固定資産の取得による支出	224	230
差入保証金の差入による支出	912	1,081
差入保証金の回収による収入	1,330	1,150
関係会社株式の取得による支出	-	1,829
資産除去債務の履行による支出	210	158
その他	40	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,182	3,543
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	982	1,856
長期借入れによる収入	1,068	1,920
長期借入金の返済による支出	1,338	1,337
自己株式の取得による支出	0	0
自己株式の売却による収入	-	0
配当金の支払額	1,649	1,869
割賦債務の返済による支出	727	388
ファイナンス・リース債務の返済による支出	661	536
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,291	4,068
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	4,904	7,094
現金及び現金同等物の期首残高	40,728	45,633
現金及び現金同等物の期末残高	1 45,633	1 52,727

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 10社

連結子会社の名称

(株)パル

(株)P.M.フロンティア

(株)インヴォークモード

(株)マグスタイル

(株)ナイスクラブ

(株)クレセントスタッフ

(株)バレリー

PAL HOLDINGS(SINGAPORE)PTE.LTD.

(株)倉敷スタイル

帕璐(上海)商貿有限公司

(注) 前連結会計年度まで連結子会社であった(株)オリーブ・デ・オリーブは2019年3月1日付けで連結子会社の(株)ナイスクラブに吸収合併されました。

また、前連結会計年度まで連結子会社であった英・インターナショナル(株)及びジェネラル(株)は、2019年9月1日付けで連結子会社の(株)パルに吸収合併されました。

(2) 非連結子会社の数 1社

非連結子会社の名称

(株)フリーゲート白浜

連結の範囲から除いた理由

(株)フリーゲート白浜は小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社の数 3社

持分法適用関連会社の名称

(株)ノーリーズ

NICECLAUP H.K. LTD.

上海奈伊茜商貿有限公司

(注) 1. 当社は2019年8月1日付けにて(株)ノーリーズの発行済株式のうち、1,758株(株式保有比率39.01%)を取得し、持分法適用関連会社としました。

2. 当社は、2020年1月22日付けにて前連結会計年度まで持分法適用関連会社であった(株)クークロワッサンの保有株式全株を売却し、持分法の適用から除外いたしました。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社等の名称

(株)フリーゲート白浜

(有)リミックス

Cubic Effect Manegement(株)

持分法を適用しない理由

(株)フリーゲート白浜、(有)リミックス及びCubic Effect Manegement(株)は、何れも当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

(3) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用会社のうち、決算日が異なる会社については、当該会社の直近の四半期決算を基にした仮決算により作成した財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

帕璐(上海)商貿有限公司の決算日は12月31日であり、連結決算日と一致しておりません。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ たな卸資産

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法

ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員及び執行役員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度の負担すべき支給見込額を計上しております。

ハ 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、当連結会計年度の負担すべき支給見込額を計上しております。

ニ 返品調整引当金

販売した製品の返品による損失に備えるため、法人税法の繰入限度相当額を計上しております。

ホ ポイント引当金

将来のポイント使用による費用負担に備えるため、当連結会計年度末において、翌連結会計年度以降に発生すると見込まれる額を計上しております。

ヘ 債務保証損失引当金

関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

ト 役員退職慰労引当金

役員の退職に備え、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次連結会計年度から費用処理することとしております。

小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額等を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) のれんの償却方法及び期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2023年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」943百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,694百万円に含めて表示しております。

なお、同一の納税主体で「繰延税金資産」と「繰延税金負債」を相殺した影響により、前連結会計年度の総資産が9百万円減少しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
有形固定資産の減価償却累計額	8,447百万円	8,380百万円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
差入保証金	5,487百万円	4,650百万円

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	1,907百万円	1,998百万円
長期借入金	3,456 "	2,473 "
計	5,363百万円	4,472百万円

3 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
支払手形	- 百万円	2,099百万円

4 保証債務

関係会社の借入金に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
(株)フリーゲート白浜	126百万円	- 百万円

5 非連結子会社及び関連会社に対するものは次の通りであります。

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
投資有価証券(株式)	18百万円	2,004百万円
その他(出資金)	40百万円	31百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
	347百万円	364百万円

- 2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
土地	310百万円	- 百万円

- 3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
建物	238百万円	138百万円
その他	28 "	23 "
計	266百万円	162百万円

- 4 減損損失

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

用途	種類	金額(百万円)
店舗	建物	393
	器具備品	21
	リース資産	42
	その他	17

資産を用途により事業用資産、遊休資産、売却予定資産に分類しております。

事業用資産については、管理会計上の区分を基礎として、原則として店舗毎に個別物件単位に基づきグループ化しております。

事業用資産のうち、収益性の低下している資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能価額を零として評価しております。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

用途	種類	金額(百万円)
店舗	建物	334
	器具備品	10
	リース資産	30
	その他	13

資産を用途により事業用資産、遊休資産、売却予定資産に分類しております。

事業用資産については、管理会計上の区分を基礎として、原則として店舗毎に個別物件単位に基づきグループ化しております。

事業用資産のうち、収益性の低下している資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し減損損失を認識しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は使用価値により算定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスであるため、回収可能価額を零として評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	57百万円	179百万円
組替調整額	- "	- "
税効果調整前	57百万円	179百万円
税効果額	17 "	54 "
その他有価証券評価差額金	40百万円	124百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	8百万円	1百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	27百万円	65百万円
組替調整額	11 "	7 "
税効果調整前	38百万円	58百万円
税効果額	10 "	16 "
退職給付に係る調整額	27百万円	42百万円
持分法適用会社に対する 持分相当額		
当期発生額	5百万円	1百万円
その他の包括利益合計	53百万円	169百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	23,136	-	-	23,136

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	1,137	0	-	1,137

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加

0千株

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年5月23日 定時株主総会	普通株式	1,649	75	2018年2月28日	2018年5月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年5月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,869	85	2019年2月28日	2019年5月30日

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	23,136	-	-	23,136

(注) 当社は2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、当該注記に記載している事項は株式分割前の株式数を記載しております。

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	1,137	0	0	1,137

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 0千株

減少数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買増請求による減少 0千株

(注) 当社は2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、当該注記に記載している事項は株式分割前の株式数を記載しております。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年5月29日 定時株主総会	普通株式	1,869	85	2019年2月28日	2019年5月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年5月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,199	100	2020年2月29日	2020年5月28日

(注) 当社は2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
現金及び預金勘定	45,633百万円	52,727百万円
現金及び現金同等物	45,633百万円	52,727百万円

2 重要な非資金取引の内容

(前連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上した資産除去債務の額は134百万円であります。

(当連結会計年度)

当連結会計年度に新たに計上した資産除去債務の額は129百万円であります。

(金融商品関係)

(1)金融商品の状況に関する事項

金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産で運用し、必要資金については概ね自己資金を充てておりますが、一部銀行借入により調達しております。

金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先毎に期日管理及び残高管理を行うとともに、必要に応じ取引先の信用状況を随時把握する体制としております。

投資有価証券は、取引先企業及び関連企業の株式であり、それぞれ投資先の事業リスクに晒されております。当該リスクに関しては、定期的に財務状況を把握しております。

差入保証金は、主に店舗の出店による賃貸借契約に基づくものであり、差入先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、契約締結に際し差入先の信用状況を把握するとともに、信用状態が危惧される状況になった際には、速やかに回収を図ることに努めております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日となっております。

借入金は、全て銀行からの借入金であり、金利の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、市場金利の動向に注視し銀行との交渉に当たっております。

金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2)金融商品の時価等に関する事項

前連結会計年度(2019年2月28日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	45,633	45,633	-
受取手形及び売掛金	5,623	5,623	-
投資有価証券	944	944	-
差入保証金	13,088	12,924	164
資産計	65,289	65,125	164
支払手形及び買掛金	16,867	16,867	-
短期借入金	3,650	3,650	-
長期借入金	12,631	12,631	-
負債計	33,148	33,148	-

当連結会計年度(2020年2月29日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額 (百万円)
現金及び預金	52,727	52,727	-
受取手形及び売掛金	6,435	6,435	-
投資有価証券	764	764	-
差入保証金	13,017	12,890	126
資産計	72,945	72,818	126
支払手形及び買掛金	20,814	20,814	-
短期借入金	1,794	1,794	-
長期借入金	13,214	13,214	-
負債計	35,822	35,822	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

現金及び預金、 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券

市場価格または取引先金融機関から提示された価格を時価としております。

差入保証金

差入保証金の時価については、信用リスクが僅少であるため回収予定価額を回収見積り期間に対応する安全債券の利率で割引いて算出する方法によっております。

負債

支払手形及び買掛金、 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

変動金利による借入であり、短期間で市場金利を反映するため、時価は帳簿価額に近似していると考えられることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	2019年2月28日	2020年2月29日	備考
非上場株式	18	2,004	市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、資産「投資有価証券」には含めておりません。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において記載していた「長期未払金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より記載を省略しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度についても記載を省略しております。なお、前連結会計年度の「長期未払金」の連結貸借対照表計上額は、474百万円であります。

3. 金銭債権及び有価証券のうち満期のあるものの連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	45,633	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,623	-	-	-
差入保証金	4,291	3,427	5,352	17
合計	55,548	3,427	5,352	17

当連結会計年度(2020年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	52,727	-	-	-
受取手形及び売掛金	6,435	-	-	-
差入保証金	4,446	3,936	4,634	-
合計	63,609	3,936	4,634	-

4. 短期借入金及び長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年2月28日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
短期借入金	3,650	-	-	-
長期借入金	3,945	8,676	8	-
合計	7,595	8,676	8	-

当連結会計年度(2020年2月29日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
短期借入金	1,794	-	-	-
長期借入金	4,698	8,476	39	-
合計	6,492	8,476	39	-

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(2019年2月28日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	939	498	440
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	939	498	440
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	5	6	1
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	5	6	1
合計	944	504	439

(注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2 連結会計年度末日における時価が取得価額に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行っております。

当連結会計年度(2020年2月29日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	760	498	261
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	760	498	261
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	4	6	1
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	4	6	1
合計	764	504	260

(注) 1 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

2 連結会計年度末日における時価が取得価額に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、退職一時金制度を設けております。また、一部の連結子会社は特定退職金共済制度に加入しております。なお、一部の連結子会社は退職給付に係る負債及び退職給付費用の算定に当たり簡便法を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
退職給付債務の期首残高	843	901
勤務費用	125	126
利息費用	5	5
数理計算上の差異の発生額	27	65
退職給付の支払額	46	53
退職給付債務の期末残高	901	1,046

(注) 退職給付債務は特定退職金共済制度により支給される額の前連結会計年度末残高 1 百万円及び当連結会計年度末残高 1 百万円を控除しております。また、簡便法を適用した制度を含んでおります。

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
非積立型制度の退職給付債務	901	1,046
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	901	1,046
退職給付に係る負債	901	1,046
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	901	1,046

(注) 退職給付債務は特定退職金共済制度により支給される額の前連結会計年度末残高 1 百万円及び当連結会計年度末残高 1 百万円を控除しております。また、簡便法を適用した制度を含んでおります。

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
勤務費用	125	126
利息費用	5	5
数理計算上の差異の費用処理額	11	7
確定給付制度に係る退職給付費用	142	140

(注) 簡便法を適用した制度を含んでおります。

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
数理計算上の差異	38	58
合計	38	58

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
未認識数理計算上の差異	9	49
合計	9	49

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
割引率	0.7%	0.7%

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
繰延税金資産		
賞与引当金	524	483
未払事業税	149	43
法定福利費	81	81
未払事業所税	35	19
商品評価損	123	111
役員退職慰労引当金	44	45
退職給付に係る負債	293	352
貸倒引当金	22	100
債務保証損失引当金	53	-
減損損失	378	362
資産除去債務	604	617
繰越欠損金	1,837	627
有価証券評価損	41	35
減価償却費	13	16
固定資産売却未実現損益	39	39
その他	170	266
繰延税金資産小計	4,411	3,204
評価性引当額(注)	2,365	605
繰延税金資産合計	2,046	2,599
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	218	197
負債調整勘定	-	14
その他有価証券評価差額金	134	79
繰延税金負債合計	352	291
差引繰延税金資産純額	1,694	2,308
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する除去費用	-	4
負債調整勘定	19	-
繰延税金負債合計	19	4

(注) 評価性引当額が1,760百万円減少しております。この減少の主な内容は、英・インターナショナル(株)及びジェネラル(株)が(株)パルに吸収合併されたことに伴い、税務上の繰越欠損金のスケジューリングが可能になったことによるものです。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当連結会計年度 (2020年2月29日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
(調整)		
住民税均等割	1.0	0.9
役員賞与等損金不算入	2.4	2.6
評価性引当額増減額	1.0	18.6
親会社との税率差異	2.5	2.3
その他	0.5	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.2	18.3

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を6年～15年と見積り、割引率は0.2%～1.8%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
期首残高	1,801	1,781
有形固定資産の取得に伴う増加額	134	129
時の経過による調整額	9	8
資産除去債務の履行による減少額	164	90
期末残高	1,781	1,829

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループでは、衣料品販売を主たる事業とし、雑貨販売も展開しており、それぞれ包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社グループは業態別のセグメントから構成されており、商品形態及び経済的特徴を考慮した上で集約し、「衣料事業」及び「雑貨事業」の2つを報告セグメントとしております。これらは、各々について分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

「衣料事業」は、衣料品等の小売(仕入販売)及び製造販売を行っております。「雑貨事業」は、日用雑貨品等の小売(仕入販売)を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント内の内部収益及び振替高は市場価格に基づいております。

なお、当社では報告セグメントに資産及び負債を配分しておりません。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務 諸表計上額 (注)3
	衣料事業	雑貨事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	96,139	34,231	130,371	103	130,474	-	130,474
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	176	176	176	-
計	96,139	34,231	130,371	279	130,650	176	130,474
セグメント利益又は損失()	6,311	1,565	7,877	21	7,899	34	7,933
その他の項目							
減価償却費	1,329	507	1,836	0	1,837	-	1,837
のれん償却額	18	-	18	-	18	-	18

(注) 1. 「その他」に含まれる事業は、人材派遣業等であります。

2. 調整額は、すべてセグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸 表計上額 (注)3
	衣料事業	雑貨事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	97,102	34,968	132,070	92	132,163	-	132,163
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	172	172	172	-
計	97,102	34,968	132,070	265	132,335	172	132,163
セグメント利益又は損失 ()	6,701	2,329	9,031	1	9,032	34	9,067
その他の項目							
減価償却費	1,368	509	1,877	1	1,878	-	1,878
のれん償却額	18	-	18	-	18	-	18

(注) 1. 「その他」に含まれる事業は、人材派遣業等であります。
 2. 調整額は、すべてセグメント間取引消去によるものです。
 3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客ごとの売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客ごとの売上高が連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	衣料事業	雑貨事業	計			
減損損失	361	113	475	-	-	475

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	衣料事業	雑貨事業	計			
減損損失	273	114	387	-	-	387

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	衣料事業	雑貨事業	計			
当期償却額	18	-	18	-	-	18
当期末残高	67	-	67	-	-	67

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	衣料事業	雑貨事業	計			
当期償却額	18	-	18	-	-	18
当期末残高	49	-	49	-	-	49

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権の所有 (被所有) 割合%	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	井上英隆	-	-	当社代表取締役会長 公益財団法人パル井上財団代表理事	(被所有) 直接2.35	-	財団への寄付 (注) 1	12	-	-
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	AMH mycket(株) (注) 3	東京都港区	1,501	資産管理会社	なし	敷金の差入 賃料の支払	敷金の差入 (注) 2	158	差入保証金	158
							賃料等の支払 (注) 2	16	-	-

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針

- 公益財団法人パル井上財団との取引は、第三者のための取引であり、財団への寄付は、取締役会の承認に基づき決定しております。
- 敷金の差入、賃料の支払については、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。
- AMH mycket(株)については、当社代表取締役会長井上英隆及びその近親者が議決権を100%保有しております。

当連結会計年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権の所有 (被所有) 割合%	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	AMH mycket(株) (注) 2	東京都港区	1,501	資産管理会社	なし	賃料の支払	賃料等の支払 (注) 1	58	-	-

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針

- 賃料の支払については、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。
- AMH mycket(株)については、当社代表取締役会長井上英隆及びその近親者が議決権を100%保有しております。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり純資産	946円40銭	1,059円78銭
1株当たり当期純利益	108円20銭	159円74銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2 当社は、2020年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
 3 算定上の基礎

(1) 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
純資産の部の合計額(百万円)	41,639	46,627
普通株式に係る純資産額(百万円)	41,639	46,627
普通株式の発行済株式数(株)	46,272,000	46,272,000
普通株式の自己株式数(株)	2,274,514	2,274,644
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	43,997,486	43,997,356

(2) 1株当たり当期純利益

項目	前連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当連結会計年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,760	7,028
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,760	7,028
普通株式の期中平均株式数(株)	43,997,623	43,997,450

(重要な後発事象)

1. 新型コロナウイルス感染拡大による影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月7日に緊急事態宣言が発令され、外出自粛要請が強化されるとともに、全国に展開している当社グループのほとんどの店舗が臨時休業を余儀なくされました。さらに5月4日には同宣言が延長されたことから、大都市圏においては臨時休業の長期化が予想され、ゴールデンウィーク明けには大都市圏以外において一部の店舗が開店したものの、時間短縮での営業となっております。このため、翌期以降の連結業績に重要な影響を与える可能性があります。影響額については、提出日現在では算定することが困難であります。

2. 多額な資金の借入

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、2020年4月度の売上高は前年比大幅減少となりました。このため、2020年4月30日に下記の金融機関3行と総額15,000百万円のコミットライン契約(1年間)を締結致しました。その後、5月4日に緊急事態宣言が延長されたことから、売上高の大幅減少と、それに伴う人件費をはじめとする固定費等の支払に伴う資金減少は当面継続すると考えられること、また、手元資金は今後の出店をはじめとする新規投資等に機動的に対応するために残存させるとの判断のもと、当社では同コミットライン契約に基づき、以下のとおり5月11日に10,000百万円の借入を実施いたしました。

(1) 用途

運転資金

(2) 借入先の名称

㈱三井住友銀行、㈱三菱UFJ銀行及び㈱みずほ銀行

(3) 借入金額

10,000百万円

(4) 借入金利

基準金利 + スプレッド

(5) 借入実行日

2020年5月11日

(6) 返済期限

2020年8月11日

(7) 担保提供資産又は保証の内容

なし

3. 株式分割

当社は、2020年1月14日開催の取締役会決議に基づき、2020年3月1日付けで、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行っております。

(1) 株式分割

株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げることにより、株式の流動性の向上及び投資家層の拡大を図ることを目的とするものであります。

株式分割の概要

) 分割の方法

2020年2月29日(土)(実質2月28日(金))を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1株につき2株の割合をもって分割しております。

) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式数	23,136,000 株
今回の株式分割により増加する株式数	23,136,000 株
株式分割後の発行済株式総数	46,272,000 株
株式分割後の発行可能株式総数	172,800,000 株

) 分割の日程

基準日公告日	2020年2月13日(木)
基準日	2020年2月29日(土)
効力発生日	2020年3月1日(日)

) 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響は、(1株当たり情報)に反映しております。

株式分割に伴う定款の一部変更

) 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2020年3月1日(日)をもって当社定款の一部を変更しております。

) 定款変更の内容

変更の内容は以下のとおりであります。

(下線は変更箇所を示しております。)

現行定款	変更後
(発行可能株式総数)	(発行可能株式総数)
第6条 当社の発行可能株式総数は86,400,000株とする。	第6条 当社の発行可能株式総数は <u>172,800,000株</u> とする。

) 定款変更の日程

効力発生日 2020年3月1日(日)

その他

資本金額の変更

今回の株式分割に際して、資本金の額に変更はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,650	1,794	0.33	-
1年以内に返済予定の長期借入金	3,945	4,698	0.40	-
1年以内に返済予定のリース債務	512	446	2.00	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	8,685	8,515	0.39	2021年～2026年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	960	762	2.00	2021年～2025年
その他有利子負債				
1年以内に支払予定の長期未払金	377	79	2.00	-
長期未払金(1年以内に支払予定のものを除く。)	97	48	2.00	2021年～2025年
合計	18,229	16,345	-	-

- (注) 1 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2 長期未払金は、主に店舗設備等の割賦購入資産に係る未払金であります。
 3 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)及びその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,344	2,293	1,573	1,264
リース債務	366	234	123	38
その他有利子負債	20	14	9	4

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	34,138	66,958	99,672	132,163
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	3,615	5,336	7,797	8,604
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益 (百万円)	2,398	3,468	6,559	7,028
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	54.51	78.84	149.09	159.74

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益 (円)	54.51	24.33	70.25	10.65

(注) 当社は、2020年3月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため1株当たり四半期(当期)純利益は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,443	22,050
売掛金	1 145	1 322
商品	15	-
前払費用	26	18
関係会社短期貸付金	11,054	14,500
その他	1 485	1 364
貸倒引当金	281	-
流動資産合計	33,887	37,256
固定資産		
有形固定資産		
建物	301	268
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	40	35
土地	654	654
リース資産	163	123
有形固定資産合計	1,160	1,082
無形固定資産	555	469
投資その他の資産		
投資有価証券	944	764
関係会社株式	2,865	4,620
関係会社長期貸付金	-	1,090
差入保証金	2 10,899	2 11,217
繰延税金資産	808	850
その他	144	144
貸倒引当金	2	268
投資その他の資産合計	15,660	18,419
固定資産合計	17,377	19,970
資産合計	51,265	57,226

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年2月28日)	当事業年度 (2020年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 6	-
短期借入金	-	1,794
1年内返済予定の長期借入金	2 3,585	2 4,698
未払金	1 260	1 88
未払費用	23	1 33
リース債務	42	43
未払法人税等	287	-
預り金	1 410	1 240
賞与引当金	126	124
役員賞与引当金	326	427
その他	3	143
流動負債合計	5,071	7,593
固定負債		
長期借入金	2 8,369	2 8,515
退職給付引当金	31	29
リース債務	137	94
債務保証損失引当金	3,050	-
資産除去債務	4	-
その他	1 103	1 107
固定負債合計	11,695	8,746
負債合計	16,767	16,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,181	3,181
資本剰余金		
資本準備金	3,379	3,379
その他資本剰余金	1,090	1,090
資本剰余金合計	4,469	4,469
利益剰余金		
利益準備金	21	21
その他利益剰余金		
別途積立金	12,600	12,600
繰越利益剰余金	16,008	22,522
利益剰余金合計	28,629	35,143
自己株式	2,088	2,088
株主資本合計	34,192	40,706
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	304	180
評価・換算差額等合計	304	180
純資産合計	34,497	40,886
負債純資産合計	51,265	57,226

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
売上高		
商品売上高	216	-
営業収益		
関係会社受入手数料	2 3,997	2 4,168
関係会社受取配当金	2 2,173	2 3,986
営業収益計	6,170	8,155
営業収益合計	6,387	8,155
売上原価	2 102	-
売上総利益	6,285	8,155
販売費及び一般管理費	2, 3 2,148	-
営業費用	-	2, 3 2,120
営業利益	4,136	6,034
営業外収益		
受取利息	2 140	2 153
受取配当金	6	7
受取賃貸料	2 41	2 43
その他	2 17	2 8
営業外収益合計	206	212
営業外費用		
支払利息	60	71
貸倒引当金繰入額	-	19
その他	0	0
営業外費用合計	61	90
経常利益	4,282	6,157
特別利益		
固定資産売却益	4 200	-
移転補償金	242	-
債務保証損失引当金繰入額	-	3,050
貸倒引当金繰入額	-	35
特別利益合計	443	3,085
特別損失		
固定資産除却損	7	-
債務保証損失引当金繰入額	450	-
関係会社株式評価損	120	15
関係会社株式売却損	-	8
貸倒引当金繰入額	242	-
特別損失合計	820	24
税引前当期純利益	3,905	9,217
法人税、住民税及び事業税	940	820
法人税等調整額	14	13
法人税等合計	925	833
当期純利益	2,980	8,383

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	3,181	3,379	1,090	4,469	21	12,600	14,678	27,299
当期変動額								
剰余金の配当							1,649	1,649
当期純利益							2,980	2,980
自己株式の取得								
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	1,330	1,330
当期末残高	3,181	3,379	1,090	4,469	21	12,600	16,008	28,629

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,088	32,862	264	264	33,127
当期変動額					
剰余金の配当		1,649			1,649
当期純利益		2,980			2,980
自己株式の取得	0	0			0
自己株式の処分					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			40	40	40
当期変動額合計	0	1,329	40	40	1,370
当期末残高	2,088	34,192	304	304	34,497

当事業年度(自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	3,181	3,379	1,090	4,469	21	12,600	16,008	28,629
当期変動額								
剰余金の配当							1,869	1,869
当期純利益							8,383	8,383
自己株式の取得								
自己株式の処分			0	0				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	0	0	-	-	6,513	6,513
当期末残高	3,181	3,379	1,090	4,469	21	12,600	22,522	35,143

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価 証券評価差 額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	2,088	34,192	304	304	34,497
当期変動額					
剰余金の配当		1,869			1,869
当期純利益		8,383			8,383
自己株式の取得	0	0			0
自己株式の処分	0	0			0
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			124	124	124
当期変動額合計	0	6,513	124	124	6,389
当期末残高	2,088	40,706	180	180	40,886

【注記事項】

(重要な会計方針)

- 1 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式
 - 移動平均法による原価法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの
 - 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
 - 時価のないもの
 - 移動平均法による原価法

- 2 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産(リース資産を除く)
 - 定率法
 - ただし、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法
 - 無形固定資産(リース資産を除く)
 - 定額法
 - なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法
 - リース資産
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

- 3 引当金の計上基準
 - 貸倒引当金
 - 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
 - 賞与引当金
 - 従業員及び執行役員に対する賞与の支給に備えるため、当事業年度の負担すべき支給見込額を計上しております。
 - 役員賞与引当金
 - 役員に対する賞与の支給に備えるため、当事業年度の負担すべき支給見込額を計上しております。
 - 債務保証損失引当金
 - 関係会社への債務保証に係る損失に備えるため、被保証者の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。
 - 退職給付引当金
 - 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。
- イ．退職給付見込額の期間帰属方法
- 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ロ．数理計算上の差異の費用処理方法
- 数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」47百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」808百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権債務

(単位：百万円)

	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
短期金銭債権	313	481
短期金銭債務	456	291
長期金銭債務	38	44

2 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
差入保証金	4,798百万円	4,650百万円

(2) 担保に係る債務

	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	1,547百万円	1,998百万円
長期借入金	3,139 "	2,473 "
計	4,686百万円	4,472百万円

3 保証債務

関係会社の借入金及び仕入債務に対し、次のとおり債務保証を行っております。

(単位：百万円)

	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
ジェネラル(株)	443	-
(株)フリーゲート白浜	126	-
計	569	-

(損益計算書関係)

- 1 当事業年度より、「商品売上高」がなくなったことに伴い、事業から生じる収益については、「営業収益」として計上するとともに、それに対応する費用を「営業費用」として計上しております。

2 関係会社との取引高

(単位：百万円)

	第47期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	第48期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
営業収益	6,170	8,155
営業費用	329	217
営業取引以外の取引高(収益)	169	182

- 3 営業費用のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

なお、第47期における販売費のおおよその割合は4.9%、一般管理費のおおよその割合は95.1%であります。

(単位：百万円)

	第47期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	第48期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
給与及び手当	245	223
賞与引当金繰入額	126	124
役員賞与引当金繰入額	326	427
退職給付費用	11	10
減価償却費	183	214
業務委託料	265	246

4 固定資産売却益

(単位：百万円)

	第47期 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	第48期 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
土地	200	-

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は市場価格が無く、時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：百万円)

区分	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
子会社株式	2,847	2,781
関連会社株式	17	1,838
計	2,865	4,620

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
繰延税金資産		
賞与引当金	7	7
未払事業税	38	26
法定福利費	1	1
退職給付引当金	9	9
投資有価証券評価損	41	35
関係会社株式評価損	149	152
減損損失	6	6
資産除去債務	1	-
債務保証損失引当金	933	-
みなし配当金	90	102
貸倒引当金	86	81
関係会社株式 (会社分割に伴う承継会社株式)	886	886
その他	26	25
小計	2,278	1,333
評価性引当額	1,335	403
繰延税金資産合計	943	929
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	134	79
繰延税金負債合計	134	79
繰延税金資産純額	808	850

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	第47期 (2019年2月28日)	第48期 (2020年2月29日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
(調整)		
住民税均等割	0.1	0.1
役員賞与等損金不算入	3.4	1.7
受取配当金益金不算入	17.1	13.2
評価性引当額増減額	6.4	10.2
その他	0.1	0.0
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	23.7	9.0

(重要な後発事象)

1. 新型コロナウイルス感染拡大による影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月7日に緊急事態宣言が発令され、外出自粛要請が強化されるとともに、全国に展開している当社グループのほとんどの店舗が臨時休業を余儀なくされました。さらに5月4日には同宣言が延長されたことから、大都市圏においては臨時休業の長期化が予想され、ゴールデンウィーク明けには大都市圏以外において一部の店舗が開店したものの、時間短縮での営業となっております。このため、翌期以降の業績に重要な影響を与える可能性があります。影響額については、提出日現在では算定することが困難であります。

2. 多額な資金の借入

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、2020年4月度の売上高は前年比大幅減少となりました。このため、2020年4月30日に下記の金融機関3行と総額15,000百万円のコミットライン契約(1年間)を締結致しました。その後、5月4日に緊急事態宣言が延長されたことから、売上高の大幅減少と、それに伴う人件費をはじめとする固定費等の支払に伴う資金減少は当面継続すると考えられること、また、手元資金は今後の出店をはじめとする新規投資等に機動的に対応するために残存させるとの判断のもと、当社では同コミットライン契約に基づき、以下のとおり5月11日に10,000百万円の借入を実施いたしました。

(1) 用途

運転資金

(2) 借入先の名称

㈱三井住友銀行、㈱三菱UFJ銀行及び㈱みずほ銀行

(3) 借入金額

10,000百万円

(4) 借入金利

基準金利 + スプレッド

(5) 借入実行日

2020年5月11日

(6) 返済期限

2020年8月11日

(7) 担保提供資産又は保証の内容

なし

3. 株式分割

当社は、2020年1月14日開催の取締役会決議に基づき、2020年3月1日付けで、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行っております。

(1) 株式分割

株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げることにより、株式の流動性の向上及び投資家層の拡大を図ることを目的とするものであります。

株式分割の概要

) 分割の方法

2020年2月29日(土)(実質2月28日(金))を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1株につき2株の割合をもって分割しております。

) 分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式数	23,136,000 株
今回の株式分割により増加する株式数	23,136,000 株
株式分割後の発行済株式総数	46,272,000 株
株式分割後の発行可能株式総数	172,800,000 株

) 分割の日程

基準日公告日	2020年2月13日(木)
基準日	2020年2月29日(土)
効力発生日	2020年3月1日(日)

) 1株当たり情報に及ぼす影響

前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における(1株当たり情報)の各数値はそれぞれ次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	当事業年度 (自 2019年3月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり純資産	784円07銭	929円30銭
1株当たり当期純利益	67円73銭	190円55銭

株式分割に伴う定款の一部変更

) 定款変更の理由

今回の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2020年3月1日(日)をもって当社定款の一部を変更しております。

) 定款変更の内容

変更の内容は以下のとおりであります。

(下線は変更箇所を示しております。)

現行定款	変更後
(発行可能株式総数)	(発行可能株式総数)
第6条 当社の発行可能株式総数は 86,400,000株とする。	第6条 当社の発行可能株式総数は <u>172,800,000株</u> とする。

) 定款変更の日程

効力発生日 2020年3月1日(日)

その他

資本金額の変更

今回の株式分割に際して、資本金の額に変更はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却累 計額 (百万円)
有形 固 定 資 産	建物	301	0	6	27	268	141
	車両運搬具	0	-	-	0	0	14
	工具、器具及び備品	40	11	-	16	35	31
	土地	654	-	-	-	654	-
	リース資産	163	-	-	39	123	76
	有形固定資産計	1,160	12	6	84	1,082	264
	無形固定資産	555	43	-	130	469	

- (注) 1 工具、器具及び備品の当期増加額の主なものは、勤怠管理システムの機器であります。
2 無形固定資産の当期増加額の主なものは、新販売管理システムの追加ソフトウェアであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	284	19	35	268
賞与引当金	126	124	126	124
役員賞与引当金	326	427	326	427
債務保証損失引当金	3,050	-	3,050	-

(注) 債務保証損失引当金は、子会社の金融機関からの借入に対して設定していましたが、グループ金融に切り替えたことから、貸倒引当金に振り替えております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日、2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告とする。但し、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.palgroup.holdings/
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1)	有価証券報告書 及びその添付書類 並びにその確認書	事業年度 (第47期)	自 2018年3月1日 至 2019年2月28日	2019年5月31日 近畿財務局長に提出。
(2)	内部統制報告書 及びその添付書類			2019年5月31日 近畿財務局長に提出。
(3)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書		2019年5月31日 近畿財務局長に提出。
		企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号(財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書		2019年7月9日 近畿財務局長に提出。
(4)	四半期報告書 及びその確認書	(第48期第1四半期)	自 2019年3月1日 至 2019年5月31日	2019年7月12日 近畿財務局長に提出。
		(第48期第2四半期)	自 2019年6月1日 至 2019年8月31日	2019年10月11日 近畿財務局長に提出。
		(第48期第3四半期)	自 2019年9月1日 至 2019年11月30日	2020年1月14日 近畿財務局長に提出。
(5)	自己株券買付状況報告書			2020年4月10日 近畿財務局長に提出
				2020年5月11日 近畿財務局長に提出
(6)	訂正自己株券買付状況報告書	2020年4月10日に提出した自己株券買付状況報告書の訂正自己株券買付状況報告書		2020年5月22日 近畿財務局長に提出
		2020年5月11日に提出した自己株券買付状況報告書の訂正自己株券買付状況報告書		2020年5月22日 近畿財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年5月29日

株式会社パルグループホールディングス
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	余	野	憲	司
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	弓	削	亜	紀

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パルグループホールディングスの2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パルグループホールディングス及び連結子会社の2020年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社パルグループホールディングスの2020年2月29日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社パルグループホールディングスが2020年2月29日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

2020年5月29日

株式会社パルグループホールディングス
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 余 野 憲 司

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 弓 削 亜 紀

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社パルグループホールディングスの2019年3月1日から2020年2月29日までの第48期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社パルグループホールディングスの2020年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。